

佐倉市男女平等参画社会に関する 市民意識調査報告書

平成30年4月
佐倉市

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、男女平等・共同参画に関する市民の意識を把握し、今後の関係施策を推進するための基礎調査資料を得ることを目的とする。

2 調査の内容

- (1) 男女平等意識について
- (2) 家庭生活について
- (3) 子育て・教育について
- (4) 職業（就業）について
- (5) 地域活動について
- (6) 人権について
- (7) 男女平等参画推進センター ミウズについて
- (8) 男女平等施策について

3 調査方法

- (1) 調査地域 佐倉市全域
- (2) 調査対象者 市内在住の満18歳以上70歳未満の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳による無作為
- (5) 調査方法 郵送配布 — 郵送回収
- (6) 調査期間 平成29年9月1日（金）から 10月2日（月）まで

4 回収結果

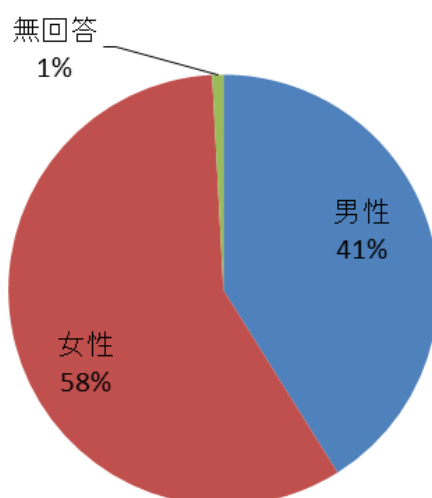
有効回収数（率）	954（31.8%）	
	女性	554
	男性	392

5 報告書の見方

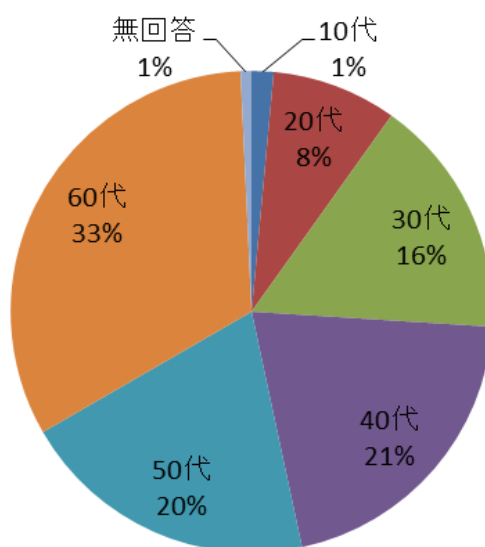
- (1) 回答は各質問の回答者数を基数（n）とした百分率（%）で表示してある。
- (2) 百分率は、小数第二位を四捨五入してあるため、合計が100%にならない場合がある。
- (3) 全体には属性無回答を含むため、男女別等の属性別計の数と一致しない。
- (4) 表の都合上、設問や回答の選択肢及び数値を省略している場合がある。

6 回答者の属性

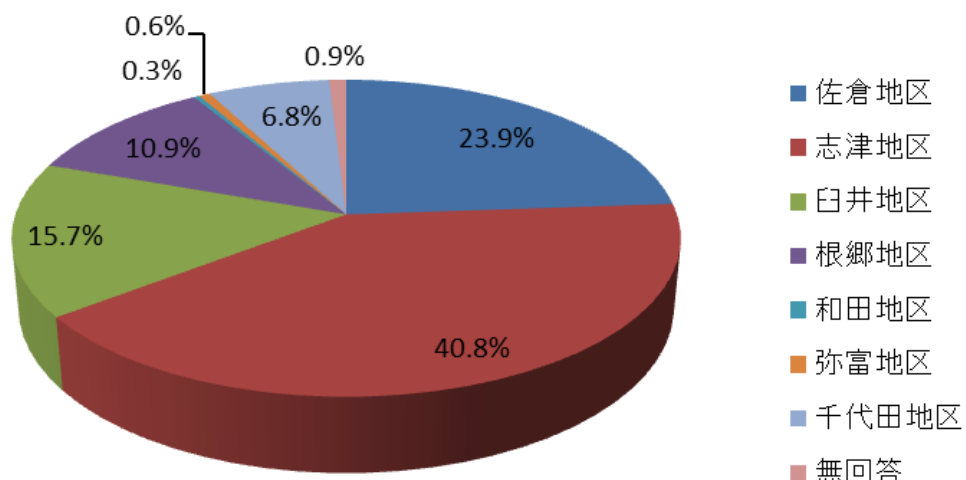
(1) 性別



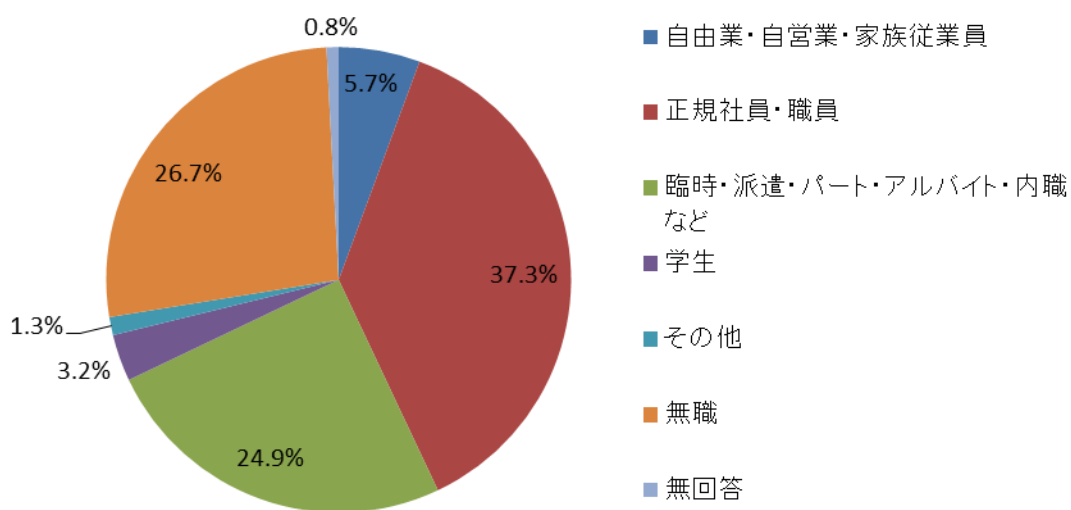
(2) 年齢



(3) 居住地区



(4) 職業



II 調查結果

1 男女平等意識について

1-1 性別役割分業への賛否

問1 あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。
(〇は1つ)

[%]

	全体 (954)	女性 (554)	男性 (392)
同感する	6.2	4.7	7.7
どちらともいえない	39.5	38.8	40.8
同感しない	50.4	52.3	48.0
わからない	1.4	1.6	1.0
無回答	2.5	2.5	2.6

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「同感しない」が 50.4%と、「同感する」(6.2%)を大きく上回っている。

[性・年代別]

女性の場合、全ての世代で「同感しない」が 40%を超えており、「どちらともいえない」が 30%から 40%代となっている。

男性の場合、全ての世代で「同感しない」が 40%を超えている。

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10-20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
同感する	4.7	6.3	11.7	3.9	2.7	1.9
	7.7	3.2	10.2	7.1	4.9	9.3
どちらともいえない	38.8	30.2	38.3	37.8	38.2	43.8
	40.8	22.6	42.4	37.1	43.2	44.4
同感しない	52.3	57.1	45.7	54.3	55.5	50.6
	48.0	71.0	45.8	52.9	48.1	41.7
わからない	1.6	1.6	2.1	3.1	0.9	0.6
	1.0	0.0	0.0	2.9	0.0	1.3
無回答	2.5	4.8	2.1	0.8	2.7	3.1
	2.6	3.2	1.7	0.0	3.7	3.3

1-2 男女平等感

問2 あなたは、次の(ア)～(ケ)について、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの項目ごとに、あてはまるものを選んでください。

[%]

(n=954)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇 されている	どちらか といえ ば男性が 優遇され ている		女性 が優遇 されて いる	女性 の方が 非常に 優遇さ れている				
(ア) 家庭生活の中で	7.4	37.7	36.6	9.3	1.7	5.7	1.6	45.1	11.0
(イ) 地域社会の中で	8.6	43.3	28.7	9.3	1.4	7.3	1.4	51.9	10.7
(ウ) 学校教育の場で	2.1	15.7	61.9	3.7	0.6	14.7	1.3	17.8	4.3
(エ) 職場の中で	14.5	47.8	21.3	6.7	1.8	6.3	1.7	62.3	8.5
(オ) 法律や制度の中で	6.8	35.8	33.6	8.4	2.1	11.9	1.3	42.6	10.5
(カ) 政治の場で	25.1	45.2	16.2	2.1	1.0	9.3	1.0	70.3	3.1
(キ) 社会通念・習慣・ しきたりなど	20.6	56.3	12.6	2.2	1.2	5.9	1.3	76.9	3.4
(ク) 人生を決める 選択肢や自由さ	11.3	42.7	33.1	5.7	1.5	4.9	0.8	54.0	7.2
(ケ) 社会全体で みた場合	9.7	61.0	15.6	5.3	0.8	6.4	1.0	70.7	6.1

前回の調査同様、全ての分野で、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた「男性優遇 (計)」が、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた「女性優遇 (計)」を上回っている。

また、「平等である」に注目してみると、「学校教育の場で」が 61.9%、以下、「家庭生活の中で」(36.6%)、「法律や制度の中で」(33.6%)、「人生を決める選択肢や自由さ」(33.1%) の順で続いている。

[性別]

性別でみると、「学校教育の場では」「平等である」が女性で 56.7%、男性で 69.4%を占めている。

「職場の中で」は、「男性優遇（計）」が、女性で 65.9%、男性で 56.9%となっている。

「政治の場では」「男性優遇（計）」が、女性で 77.8%、男性で 59.4%となっている。

「社会通念・習慣・しきたりなど」では、「男性優遇（計）」が、女性で 78.9%、男性で 74.2%となっている。

「社会全体でみた場合」に対しては、「男性優遇（計）」との評価が、女性で 78.5%、男性で 59.7%を占めている。

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	非常に優遇されている	男性の方が優遇されている		どちらかといえば優遇されている	女性の方が優遇されている				
(女性:554、男性:392)									
(ア) 家庭生活の中で	10.3 3.3	44.4 28.1	30.0 45.9	7.0 12.8	0.5 3.3	5.8 5.6	2.0 1.0	54.7 31.4	7.5 16.1
(イ) 地域社会の中で	11.6 4.3	46.2 39.3	24.7 33.9	6.5 13.5	0.7 2.3	8.7 5.6	1.6 1.0	57.8 43.6	7.2 15.8
(ウ) 学校教育の場では	2.5 1.3	19.3 11.0	56.7 69.4	3.1 4.3	0.2 1.3	17.0 11.5	1.3 1.3	21.8 12.3	3.3 5.6
(エ) 職場の中で	16.4 11.2	49.5 45.7	19.7 23.5	3.6 11.2	0.5 3.6	8.7 3.1	1.6 1.8	65.9 56.9	4.1 14.8
(オ) 法律や制度の中で	9.6 2.8	42.1 26.8	25.6 44.9	6.0 12.0	0.4 4.6	14.8 8.2	1.6 0.8	51.7 29.6	6.4 16.6
(カ) 政治の場では	32.3 14.5	45.5 44.9	9.7 25.3	0.7 4.1	0.2 2.3	10.3 8.2	1.3 0.8	77.8 59.4	0.9 6.4
(キ) 社会通念・習慣・しきたりなど	25.1 14.3	53.8 59.9	11.2 14.3	1.1 3.8	0.5 2.0	6.7 4.8	1.6 0.8	78.9 74.2	1.6 5.8
(ク) 人生を決める 選択肢や自由さ	13.9 7.7	44.4 40.6	29.6 37.8	4.7 7.1	0.5 2.8	5.8 3.6	1.1 0.5	58.3 48.3	5.2 9.9
(ケ) 社会全体で みた場合	13.0 5.1	65.5 54.6	11.6 21.2	1.4 11.0	0.2 1.8	7.0 5.6	1.3 0.8	78.5 59.7	1.6 12.8

[性・年代別]

(ア) 家庭生活の中で

「男性優遇（計）」が、女性で 54.7%、男性で 31.4%を占めている。

また、「平等である」が、女性で 30%、男性で 45.9%を占めている。

[%]

(n=954)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無 回答	男性優 遇 (計)	女性優 遇 (計)
	男性の 方が 非常に 優遇さ されて いる	どちら かとい えば 男性が 優遇さ されて いる		女性 が優 遇さ れて いる	女性 の方 が 非常 に優 遇さ れて いる				
全体	7.4	37.7	36.6	9.3	1.7	5.7	1.6	45.1	11.0
女性全体 (554)	10.3	44.4	30.0	7.0	0.5	5.8	2.0	54.7	7.5
10-20 歳代 (63)	3.2	31.7	39.7	19.0	0.0	6.3	0.0	34.9	19.0
30 歳代 (94)	6.4	43.6	35.1	8.5	1.1	4.3	1.1	50.0	9.6
40 歳代 (127)	14.2	38.6	26.0	5.5	0.0	13.4	2.4	52.8	5.5
50 歳代 (110)	10.9	46.4	33.6	3.6	0.9	3.6	0.9	57.3	4.5
60 歳以上 (160)	11.9	53.1	23.8	5.0	0.6	1.9	3.8	65.0	5.6
男性全体 (392)	3.3	28.1	45.9	12.8	3.3	5.6	1.0	31.4	16.1
10-20 歳代 (31)	3.2	29.0	29.0	29.0	0.0	9.7	0.0	32.2	29.0
30 歳代 (59)	1.7	16.9	50.8	20.3	5.1	5.1	0.0	18.6	25.4
40 歳代 (70)	1.4	22.9	48.6	11.4	5.7	7.1	2.9	24.3	17.1
50 歳代 (81)	3.7	27.2	40.7	16.0	6.2	6.2	0.0	30.9	22.2
60 歳以上 (151)	4.6	35.1	49.0	5.3	0.7	4.0	1.3	39.7	6.0

(イ) 地域社会の中で

女性の場合、50歳代の65.4%、60歳以上の71.9%が、「男性優遇（計）」と回答している。
男性の場合、60歳以上の57.0%が、「男性優遇（計）」と回答している。

[%]

(n=954)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無 回答	男性 優遇 (計)	女性 優遇 (計)
	男性の 方が 非常に 優遇さ されて いる	どちら かとい えは 男性が 優遇さ されて いる		女性 が優 遇さ れて いる	女性 の方 が 非 常に 優 遇さ れて いる				
全体	8.6	43.3	28.7	9.3	1.4	7.3	1.4	51.9	10.7
女性全体 (554)	11.6	46.2	24.7	6.5	0.7	8.7	1.6	57.8	7.2
10-20歳代 (63)	11.1	34.9	30.2	15.9	1.6	6.3	0.0	46.0	17.5
30歳代 (94)	10.6	38.3	27.7	7.4	0.0	14.9	1.1	48.9	7.4
40歳代 (127)	9.4	36.2	30.7	6.3	1.6	14.2	1.6	45.6	7.9
50歳代 (110)	14.5	50.9	21.8	3.6	0.9	5.5	2.7	65.4	4.5
60歳以上 (160)	11.9	60.0	18.1	4.4	0.0	3.8	1.9	71.9	4.4
男性全体 (392)	4.3	39.3	33.9	13.5	2.3	5.6	1.0	43.6	15.8
10-20歳代 (31)	3.2	19.4	48.4	16.1	0.0	9.7	3.2	22.6	16.1
30歳代 (59)	3.4	22.0	35.6	20.3	8.5	10.2	0.0	25.4	28.8
40歳代 (70)	4.3	35.7	34.3	17.1	2.9	4.3	1.4	40.0	20.0
50歳代 (81)	3.7	39.5	37.0	14.8	2.5	2.5	0.0	43.2	17.3
60歳以上 (151)	5.3	51.7	28.5	7.9	0.0	5.3	1.3	57.0	7.9

(ウ) 学校教育の場で

女性の場合、全年代で、「平等である」と回答した人が50%強となっている。
 男性では、全年代で、「平等である」と回答した人が60～70%代となっている。

[%]

(n=954)	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 男性が優遇されている		女性が優遇されている	どちらかといえば 女性が優遇されている				
全体	2.1	15.7	61.9	3.7	0.6	14.7	1.3	17.8	4.3
女性全体 (554)	2.5	19.3	56.7	3.1	0.2	17.0	1.3	21.8	3.3
10-20 歳代 (63)	1.6	23.8	58.7	6.3	0.0	9.5	0.0	25.4	6.3
30 歳代 (94)	1.1	16.0	52.1	7.4	1.1	22.3	0.0	17.1	8.5
40 歳代 (127)	3.1	18.1	56.7	1.6	0.0	19.7	0.8	21.2	1.6
50 歳代 (110)	4.5	21.8	58.2	0.9	0.0	12.7	1.8	26.3	0.9
60 歳以上 (160)	1.9	18.8	57.5	1.9	0.0	17.5	2.5	20.7	1.9
男性全体 (392)	1.3	11.0	69.4	4.3	1.3	11.5	1.3	12.3	5.6
10-20 歳代 (31)	3.2	6.5	74.2	3.2	0.0	12.9	0.0	9.7	3.2
30 歳代 (59)	1.7	3.4	69.5	8.5	3.4	13.6	0.0	5.1	11.9
40 歳代 (70)	0.0	14.3	64.3	8.6	0.0	10.0	2.9	14.3	8.6
50 歳代 (81)	0.0	8.6	74.1	3.7	3.7	9.9	0.0	8.6	7.4
60 歳以上 (151)	2.0	14.6	68.2	1.3	0.0	11.9	2.0	16.6	1.3

(エ) 職場の中で

女性の65.9%、男性の56.9%が、「男性優遇（計）」と回答している。

[%]

(n=954)	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえ ば男性が優遇されて いる		女性の方が 非常に優遇されて いる	どちらかといえ ば女性が優遇されて いる				
全体	14.5	47.8	21.3	6.7	1.8	6.3	1.7	62.3	8.5
女性全体 (554)	16.4	49.5	19.7	3.6	0.5	8.7	1.6	65.9	4.1
10-20 歳代 (63)	9.5	52.4	25.4	6.3	0.0	6.3	0.0	61.9	6.3
30 歳代 (94)	18.1	43.6	23.4	5.3	0.0	9.6	0.0	61.7	5.3
40 歳代 (127)	13.4	42.5	27.6	5.5	1.6	7.9	1.6	55.9	7.1
50 歳代 (110)	18.2	47.3	20.9	0.9	0.0	9.1	3.6	65.5	0.9
60 歳以上 (160)	19.4	58.8	8.1	1.9	0.6	9.4	1.9	78.2	2.5
男性全体 (392)	11.2	45.7	23.5	11.2	3.6	3.1	1.8	56.9	14.8
10-20 歳代 (31)	16.1	25.8	35.5	9.7	3.2	9.7	0.0	41.9	12.9
30 歳代 (59)	5.1	49.2	16.9	16.9	8.5	3.4	0.0	54.3	25.4
40 歳代 (70)	7.1	37.1	28.6	15.7	5.7	2.9	2.9	44.2	21.4
50 歳代 (81)	9.9	43.2	28.4	13.6	3.7	0.0	1.2	53.1	17.3
60 歳以上 (151)	15.2	53.6	18.5	6.0	0.7	3.3	2.6	68.8	6.7

(オ) 法律や制度の中で

「男性優遇（計）」と回答した人が、女性で 51.7%、男性で 29.6%となっている。

「平等である」と回答した人は、女性で 25.6%、男性で 44.9%となっている。

[%]

(n=954)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無 回答	男性 優遇 (計)	女性 優遇 (計)
	男性の 方が 非常に 優遇さ れている	どちら かとい えれば 男性が 優遇さ れている		女性 が優 遇さ れて いる	女性 の方 が非 常に 優遇 され てい る				
全体	6.8	35.8	33.6	8.4	2.1	11.9	1.3	42.6	10.5
女性全体 (554)	9.6	42.1	25.6	6.0	0.4	14.8	1.6	51.7	6.4
10-20 歳代 (63)	14.3	28.6	23.8	14.3	0.0	19.0	0.0	42.9	14.3
30 歳代 (94)	7.4	37.2	23.4	10.6	0.0	21.3	0.0	44.6	10.6
40 歳代 (127)	8.7	40.2	26.0	4.7	0.8	18.1	1.6	48.9	5.5
50 歳代 (110)	9.1	48.2	25.5	3.6	0.9	11.8	0.9	57.3	4.5
60 歳以上 (160)	10.0	47.5	27.5	2.5	0.0	8.8	3.8	57.5	2.5
男性全体 (392)	2.8	26.8	44.9	12.0	4.6	8.2	0.8	29.6	16.6
10-20 歳代 (31)	0.0	22.6	38.7	12.9	9.7	16.1	0.0	22.6	22.6
30 歳代 (59)	3.4	23.7	30.5	23.7	11.9	6.8	0.0	27.1	35.6
40 歳代 (70)	0.0	28.6	41.4	14.3	5.7	8.6	1.4	28.6	20.0
50 歳代 (81)	3.7	25.9	49.4	9.9	2.5	8.6	0.0	29.6	12.4
60 歳以上 (151)	4.0	28.5	51.0	7.3	1.3	6.6	1.3	32.5	8.6

(カ) 政治の場で

「男性優遇（計）」と回答した人が、女性で77.8%、男性で59.4%となっている。

「平等である」と回答した人は、女性で9.7%、男性で25.3%となっている。

[%]

(n=954)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無 回 答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の 方が 非常に 優遇さ されて いる	どちら かとい えれば 男性が 優遇さ されて いる		女性 が優 遇さ れて いる	女性 の方 が非 常に 優遇 され てい る				
全体	25.1	45.2	16.2	2.1	1.0	9.3	1.0	70.3	3.1
女性全体 (554)	32.3	45.5	9.7	0.7	0.2	10.3	1.3	77.8	0.9
10-20 歳代 (63)	33.3	36.5	7.9	0.0	0.0	22.2	0.0	69.8	0.0
30 歳代 (94)	34.0	44.7	9.6	1.1	0.0	10.6	0.0	78.7	1.1
40 歳代 (127)	30.7	47.2	7.1	1.6	0.0	12.6	0.8	77.9	1.6
50 歳代 (110)	31.8	45.5	13.6	0.0	0.0	8.2	0.9	77.3	0.0
60 歳以上 (160)	32.5	48.1	10.0	0.6	0.6	5.0	3.1	80.6	1.2
男性全体 (392)	14.5	44.9	25.3	4.1	2.3	8.2	0.8	59.4	6.4
10-20 歳代 (31)	9.7	51.6	16.1	6.5	0.0	16.1	0.0	61.3	6.5
30 歳代 (59)	13.6	35.6	25.4	6.8	8.5	10.2	0.0	49.2	15.3
40 歳代 (70)	15.7	47.1	18.6	2.9	2.9	11.4	1.4	62.8	5.8
50 歳代 (81)	12.3	49.4	23.5	3.7	0.0	9.9	1.2	61.7	3.7
60 歳以上 (151)	16.6	43.7	31.1	3.3	1.3	3.3	0.7	60.3	4.6

(キ) 社会通念・習慣・しきたりなどで

「男性優遇（計）」と回答した人が、女性全体で 78.9%、男性全体で 74.2%となっている。

[%]

(n=954)	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 男性が優遇されている		女性が優遇されている	どちらかといえば 女性が優遇されている				
全体	20.6	56.3	12.6	2.2	1.2	5.9	1.3	76.9	3.4
女性全体 (554)	25.1	53.8	11.2	1.1	0.5	6.7	1.6	78.9	1.6
10-20 歳代 (63)	27.0	36.5	17.5	4.8	0.0	14.3	0.0	63.5	4.8
30 歳代 (94)	21.3	48.9	19.1	2.1	0.0	7.4	1.1	70.2	2.1
40 歳代 (127)	25.2	53.5	8.7	0.8	0.8	8.7	2.4	78.7	1.6
50 歳代 (110)	23.6	55.5	11.8	0.0	0.9	6.4	1.8	79.1	0.9
60 歳以上 (160)	27.5	62.5	5.6	0.0	0.6	1.9	1.9	90.0	0.6
男性全体 (392)	14.3	59.9	14.3	3.8	2.0	4.8	0.8	74.2	5.8
10-20 歳代 (31)	6.5	51.6	19.4	6.5	3.2	12.9	0.0	58.1	9.7
30 歳代 (59)	15.3	37.3	28.8	6.8	5.1	6.8	0.0	52.6	11.9
40 歳代 (70)	17.1	55.7	14.3	4.3	2.9	4.3	1.4	72.8	7.2
50 歳代 (81)	13.6	60.5	13.6	1.2	1.2	8.6	1.2	74.1	2.4
60 歳以上 (151)	14.6	72.2	7.9	3.3	0.7	0.7	0.7	86.8	4.0

(ク) 人生を決める選択肢や自由さ

「男性優遇 (計)」と回答した人が、女性で 58.3%、男性で 48.3%となっている。

「平等である」と回答した人は、女性で 29.6%、男性で 37.8%となっている。

[%]

(n=954)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されて いる	どちらかといえ ば男性が優遇され ている		女性の方が 非常に優遇されて いる	どちらかといえ ば女性が優遇され ている				
全体	11.3	42.7	33.1	5.7	1.5	4.9	0.8	54.0	7.2
女性全体 (554)	13.9	44.4	29.6	4.7	0.5	5.8	1.1	58.3	5.2
10-20 歳代 (63)	19.0	34.9	33.3	6.3	1.6	4.8	0.0	53.9	7.9
30 歳代 (94)	19.1	44.7	21.3	7.4	1.1	5.3	1.1	63.8	8.5
40 歳代 (127)	14.2	44.1	26.8	3.1	0.0	11.0	0.8	58.3	3.1
50 歳代 (110)	12.7	44.5	29.1	6.4	0.9	5.5	0.9	57.2	7.3
60 歳以上 (160)	9.4	48.1	35.6	2.5	0.0	2.5	1.9	57.5	2.5
男性全体 (392)	7.7	40.6	37.8	7.1	2.8	3.6	0.5	48.3	9.9
10-20 歳代 (31)	12.9	32.3	48.4	0.0	0.0	6.5	0.0	45.2	0.0
30 歳代 (59)	3.4	35.6	35.6	13.6	10.2	1.7	0.0	39.0	23.8
40 歳代 (70)	11.4	45.7	31.4	5.7	0.0	4.3	1.4	57.1	5.7
50 歳代 (81)	3.7	37.0	35.8	11.1	4.9	7.4	0.0	40.7	16.0
60 歳以上 (151)	8.6	43.7	40.4	4.6	0.7	1.3	0.7	52.3	5.3

(ケ) 社会全体でみた場合

女性の場合、全年代で「男性優遇（計）」が7割前後を占めている。
男性の場合、「男性優遇（計）」は全体で59.7%となっている。

[%]

(n=954)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 男性が優遇されている		どちらかといえば 女性が優遇されている	女性の方が 非常に優遇されている				
全体	9.7	61.0	15.6	5.3	0.8	6.4	1.0	70.7	6.1
女性全体 (554)	13.0	65.5	11.6	1.4	0.2	7.0	1.3	78.5	1.6
10-20 歳代 (63)	14.3	52.4	20.6	3.2	0.0	7.9	1.6	66.7	3.2
30 歳代 (94)	13.8	64.9	12.8	1.1	0.0	6.4	1.1	78.7	1.1
40 歳代 (127)	11.8	62.2	8.7	2.4	0.8	13.4	0.8	74.0	3.2
50 歳代 (110)	12.7	65.5	14.5	0.0	0.0	6.4	0.9	78.2	0.0
60 歳以上 (160)	13.1	73.8	7.5	1.3	0.0	2.5	1.9	86.9	1.3
男性全体 (392)	5.1	54.6	21.2	11.0	1.8	5.6	0.8	59.7	12.8
10-20 歳代 (31)	12.9	35.5	25.8	16.1	0.0	6.5	3.2	48.4	16.1
30 歳代 (59)	0.0	42.4	20.3	20.3	8.5	8.5	0.0	42.4	28.8
40 歳代 (70)	4.3	52.9	17.1	12.9	1.4	10.0	1.4	57.2	14.3
50 歳代 (81)	2.5	53.1	27.2	11.1	1.2	4.9	0.0	55.6	12.3
60 歳以上 (151)	7.3	64.9	19.2	5.3	0.0	2.6	0.7	72.2	5.3

2 家庭生活について

2-1 未既婚・共働きの状況

問3 あなたは現在、結婚されていますか。また、結婚されている場合は共働きですか。次の中からあてはまるものを選んでください。(○は1つ)

※「結婚」は、事実婚(戸籍上の婚姻とは限らない)も含まれます。「共働き」はパート・アルバイト等も含まれます。

※「結婚しているが、共働きでない」は、夫婦ともに働いていない場合(定年退職など)を含みます。

		[%]		
		全体 (954)	女性 (554)	男性 (392)
既婚 (計)	結婚していて、共働き	37.0	39.4	33.9
	結婚しているが、共働きでない	37.4	32.3	44.4
	結婚していたが、離別・死別した	7.1	9.7	3.6
	結婚していない	18.0	18.4	17.3
	その他	0.1	0.2	0.0
	無回答	0.3	0.0	0.8
既婚(計)		74.4	71.7	78.3

未・既婚、共働きかどうかをみると、「結婚しているが、共働きでない」が37.4%、「結婚していて、共働き」が37.0%を占めている。一方、「結婚していたが、離別・死別した」は7.1%、「結婚していない」は18.0%である。

2-2 家庭での役割分担

(問3で1、2を選んだ方のみ回答)

問4 あなたの家庭(事実婚で同居している場合を含む)では、次の(ア)～(ソ)の事柄を主に誰が担っていますか。それぞれの項目ごとに、あてはまるものを選んでください。
※「その他」には、ボランティア、ホームヘルパー、各種家事代行も含まれます。

※n=710(女性:397、男性:307)

(ア) 食事の支度

	全体	性別	
		女性	男性
夫	2.8	2.3	3.6
妻	82.5	84.4	80.1
夫婦同程度	5.9	4.5	7.8
その他家族	1.3	1.5	1.0
その他(※)	0.6	0.5	0.7
無回答	6.9	6.8	6.8

(イ) 食事の後片付け・食器洗い

	全体	性別	
		女性	男性
夫	7.5	4.3	11.4
妻	67.6	73.0	60.6
夫婦同程度	16.5	14.1	19.9
その他家族	1.0	0.8	1.3
その他(※)	0.6	0.8	0.3
無回答	6.9	7.1	6.5

(ウ) 日用品・食料品の買い物

	全体	性別	
		女性	男性
夫	3.8	2.3	5.9
妻	60.8	65.0	54.4
夫婦同程度	28.0	24.7	32.2
その他家族	0.6	0.8	0.3
その他(※)	0.4	0.3	0.7
無回答	6.9	7.1	6.5

(エ) 洗濯

	全体	性別	
		女性	男性
夫	3.8	1.8	6.5
妻	75.4	81.6	67.4
夫婦同程度	13.1	9.3	17.9
その他家族	0.7	0.5	1.0
その他(※)	0.3	0.3	0.3
無回答	6.8	6.5	6.8

(オ) 掃除

	全体	性別	
		女性	男性
夫	5.6	3.5	8.1
妻	67.7	72.5	62.2
夫婦同程度	18.6	15.6	22.1
その他家族	0.8	1.0	0.7
その他(※)	0.4	0.5	0.3
無回答	6.8	6.8	6.5

(カ) 役所等へ用事・申請書類等の作成

	全体	性別	
		女性	男性
夫	28.9	20.2	40.1
妻	36.5	46.1	24.4
夫婦同程度	27.3	26.2	28.7
その他家族	0.4	0.8	0.0
その他(※)	0.3	0.3	0.3
無回答	6.6	6.5	6.5

(キ) 資産・財産の管理
(土地・家屋などの購入など)

	全体	性別	
		女性	男性
夫	47.3	47.6	46.9
妻	18.0	19.1	16.9
夫婦同程度	26.8	24.9	29.0
その他家族	0.4	0.8	0.0
その他(※)	0.7	1.0	0.3
無回答	6.8	6.5	6.8

(ク) 家計費管理

	全体	性別	
		女性	男性
夫	14.5	14.6	14.3
妻	60.4	62.0	58.6
夫婦同程度	17.3	15.1	20.2
その他家族	0.4	0.8	0.0
その他(※)	0.6	0.8	0.3
無回答	6.8	6.8	6.5

(ケ) 自治会・町内会の出席

	全体	性別	
		女性	男性
夫	30.6	26.7	35.5
妻	33.1	35.5	30.0
夫婦同程度	15.6	16.1	15.0
その他家族	1.1	1.8	0.3
その他(※)	1.4	1.5	1.3
該当なし	11.1	11.3	11.1
無回答	7.0	7.1	6.8

(コ) 学校行事等への参加

	全体	性別	
		女性	男性
夫	2.3	0.5	4.6
妻	45.4	51.1	37.8
夫婦同程度	14.9	14.1	16.3
その他家族	0.0	0.0	0.0
その他(※)	1.0	1.3	0.7
該当なし	28.7	25.2	33.2
無回答	7.7	7.8	7.5

(サ) 子どもの世話

	全体	性別	
		女性	男性
夫	0.4	0.3	0.7
妻	48.9	52.9	44.0
夫婦同程度	21.3	20.4	22.5
その他家族	0.1	0.3	0.0
その他(※)	0.8	1.3	0.3
該当なし	20.6	17.1	24.8
無回答	7.9	7.8	7.8

(シ) 子どもの教育

	全体	性別	
		女性	男性
夫	1.4	1.3	1.6
妻	38.9	44.6	31.9
夫婦同程度	28.0	25.4	31.3
その他家族	0.1	0.3	0.0
その他(※)	0.7	1.0	0.3
該当なし	22.5	19.1	26.7
無回答	8.3	8.3	8.1

(ス) 高齢者・病人等の介護

	全体	性別	
		女性	男性
夫	1.7	1.5	1.6
妻	21.4	22.9	19.5
夫婦同程度	17.0	14.4	20.2
その他家族	0.6	0.5	0.7
その他(※)	1.3	1.5	1.0
該当なし	49.6	51.6	47.6
無回答	8.5	7.6	9.4

(セ) 家庭内の簡単な修理

	全体	性別	
		女性	男性
夫	56.9	49.4	66.4
妻	16.6	21.7	10.1
夫婦同程度	17.6	19.6	15.3
その他家族	0.8	1.0	0.7
その他(※)	0.7	1.0	0.3
無回答	7.3	7.3	7.2

(ソ) 家庭内における全体的な決定権

	全体	性別	
		女性	男性
夫	30.6	34.0	26.1
妻	15.5	14.6	16.9
夫婦同程度	46.6	44.1	49.8
その他家族	0.0	0.0	0.0
その他(※)	0.0	0.0	0.0
無回答	7.3	7.3	7.2

家庭において、「夫」の役割分担が多いものとしては、「家庭内の簡単な修理」(56.9%)、「資産・財産の管理(土地・家屋等の購入など)」(47.3%)があげられる。

また、男女の役割分担がほぼ拮抗しているものとしては、「家庭における全体的な決定権」(46.6%)があげられる。

「妻」の役割分担が多いものとしては、「食事の支度」(82.5%)、「洗濯」(75.4%)、「掃除」(67.7%)、「食事の後片付け・食器洗い」(67.6%)、「日用品・食料品等の買い物」(60.8%)があげられる。

問5 あなたの理想では、次の（ア）～（ソ）の事柄を主に誰が分担するのが望ましいと思いますか。それぞれの項目ごとに1～6の中からあてはまるものを、1つずつ選んで○をつけてください。

※「その他」には、ボランティア、ホームヘルパー、各種家事代行も含まれます。

※n=710（女性:397、男性:307）

（ア）食事の支度

	全体	性別	
		女性	男性
夫	0.3	0.5	0.0
妻	51.0	34.3	56.0
夫婦同程度	42.5	34.5	37.5
その他家族	0.6	34.8	0.3
その他（※）	1.0	35.0	2.0
無回答	4.6	35.3	4.2

（イ）食事の後片付け・食器洗い

	全体	性別	
		女性	男性
夫	5.9	6.3	5.5
妻	25.1	20.7	30.3
夫婦同程度	62.4	66.5	58.0
その他家族	1.4	1.5	1.0
その他（※）	0.7	0.3	1.3
無回答	4.5	4.8	3.9

（ウ）日用品・食料品の買い物

	全体	性別	
		女性	男性
夫	1.3	1.3	1.3
妻	28.0	28.5	27.4
夫婦同程度	65.1	65.0	65.5
その他家族	0.3	0.3	0.3
その他（※）	0.4	0.0	1.0
無回答	4.9	5.0	4.6

（エ）洗濯

	全体	性別	
		女性	男性
夫	1.7	1.8	1.6
妻	46.1	47.1	45.0
夫婦同程度	45.9	45.1	46.9
その他家族	0.8	1.3	0.3
その他（※）	0.6	0.3	1.0
無回答	4.9	4.5	5.2

（オ）掃除

	全体	性別	
		女性	男性
夫	3.5	3.8	3.3
妻	25.6	20.7	31.9
夫婦同程度	63.9	68.8	58.3
その他家族	1.5	1.8	1.0
その他（※）	0.8	0.5	1.3
無回答	4.5	4.5	4.2

（カ）役所等へ用事・申請書類等の作成

	全体	性別	
		女性	男性
夫	25.5	20.9	31.3
妻	10.7	10.8	10.4
夫婦同程度	58.3	62.7	53.1
その他家族	0.1	0.3	0.0
その他（※）	0.7	0.8	0.7
無回答	4.6	4.5	4.6

(キ) 資産・財産の管理
(土地・家屋などの購入など)

	全体	性別	
		女性	男性
夫	35.9	35.0	37.1
妻	5.4	3.3	8.1
夫婦同程度	53.1	55.9	49.5
その他家族	0.1	0.3	0.0
その他(※)	0.7	0.8	0.7
無回答	4.8	4.8	4.6

(ク) 家計費管理

	全体	性別	
		女性	男性
夫	7.0	8.3	5.5
妻	37.6	35.8	40.4
夫婦同程度	50.3	51.4	48.5
その他家族	0.0	0.0	0.0
その他(※)	0.3	0.0	0.7
無回答	4.8	4.5	4.9

(ケ) 自治会・町内会の出席

	全体	性別	
		女性	男性
夫	22.5	24.9	19.2
妻	7.0	3.5	11.7
夫婦同程度	58.5	59.4	57.3
その他家族	0.3	0.3	0.3
その他(※)	0.8	0.5	1.3
該当なし	5.9	6.5	5.2
無回答	4.9	4.8	4.9

(コ) 学校行事等への参加

	全体	性別	
		女性	男性
夫	2.0	1.8	2.3
妻	13.7	12.3	15.6
夫婦同程度	58.9	63.2	53.4
その他家族	0.0	0.0	0.0
その他(※)	0.3	0.0	0.7
該当なし	20.0	17.4	23.1
無回答	5.2	5.3	4.9

(サ) 子どもの世話

	全体	性別	
		女性	男性
夫	0.1	0.3	0.0
妻	12.0	9.3	15.6
夫婦同程度	66.1	70.8	60.3
その他家族	0.1	0.3	0.0
その他(※)	0.1	0.0	0.3
該当なし	16.3	14.1	18.9
無回答	5.2	5.3	4.9

(シ) 子どもの教育

	全体	性別	
		女性	男性
夫	0.4	0.3	0.7
妻	6.3	5.0	8.1
夫婦同程度	70.3	74.1	65.8
その他家族	0.1	0.3	0.0
その他(※)	0.1	0.0	0.3
該当なし	17.5	15.1	20.2
無回答	5.2	5.3	4.9

(ス) 高齢者・病人等の介護

	全体	性別	
		女性	男性
夫	0.4	0.5	0.3
妻	7.0	5.3	9.1
夫婦同程度	55.9	57.4	54.1
その他家族	0.7	0.8	0.7
その他(※)	1.5	1.5	1.6
該当なし	28.7	28.7	29.0
無回答	5.6	5.8	5.2

(セ) 家庭内の簡単な修理

	全体	性別	
		女性	男性
夫	48.6	43.8	54.7
妻	3.0	1.5	4.9
夫婦同程度	41.5	47.6	33.9
その他家族	0.3	0.3	0.3
その他(※)	0.7	0.5	1.0
無回答	5.9	6.3	5.2

(ソ) 家庭内における全体的な決定権

	全体	性別	
		女性	男性
夫	17.7	15.6	20.8
妻	3.8	2.5	5.5
夫婦同程度	72.3	75.3	68.1
その他家族	0.0	0.0	0.0
その他(※)	0.0	0.0	0.0
無回答	6.2	6.5	5.5

どの項目も、40%以上が「夫婦同程度」と回答しており、理想としては夫婦同程度での分担を考えているという回答が多いことがわかる。

2-3 男性が家事や育児、介護をすることへのイメージ

問6 男性が家事や育児、介護をすることについて、どのようなイメージをお持ちですか。
(〇はいくつでも)

	全体	性別	
		女性	男性
男性も家事や育児などをするのは当然だ	64.6	62.8	66.6
家事・育児・介護を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる	27.0	33.2	18.1
男性自身も充実感が得られる	30.2	29.8	30.9
子どもにいい影響を与える	63.4	70.4	54.1
仕事と両立することは、現実として難しい	49.0	47.3	51.5
家事・育児・介護は女性の方が向いている	19.4	13.4	27.0
周囲から妻が家事・育児・介護をしていないと思われる	4.9	6.5	2.8
職場で冷たい目で見られる	4.7	5.4	3.8
男性は、家事・育児・介護を行うべきでない	0.7	0.9	0.5
特にない	2.5	2.3	2.8
その他	2.2	1.4	3.3
無回答	0.6	0.4	1.0

「男性も家事や育児などをするのは当然だ」が64.6%、「子どもにいい影響を与える」が63.4%、「仕事と両立することは、現実として難しい」が49.0%となっている。
女性では、70%以上が「子どもにいい影響を与える」と回答している。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

(女性:554、男性:392)	全体	10-20 歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳 以上
男性も家事や育児などをするのは当然だ	62.8 66.6	54.0 71.0	66.0 64.4	59.8 68.6	60.0 66.7	62.8 65.6
家事・育児・介護を行う男性は時間の使い方が効率的で仕事もできる	33.2 18.1	41.3 16.1	41.5 18.6	29.9 22.9	35.5 17.3	26.3 16.6
男性自身も充実感が得られる	29.8 30.9	25.4 38.7	26.6 32.2	28.3 32.9	29.1 22.2	35.0 32.5
子どもにいい影響を与える	70.4 54.1	65.1 67.7	77.7 62.7	74.8 62.9	65.5 49.4	68.1 46.4
仕事と両立することは、現実として難しい	47.3 51.5	41.3 48.4	35.1 57.6	59.8 52.9	50.0 58.0	45.0 45.7
家事・育児・介護は女性の方が向いている	13.4 27.0	14.3 9.7	9.6 18.6	11.0 32.9	13.6 25.9	16.9 31.8
周囲から妻が家事・育児・介護をしていないと思われる	6.5 2.8	12.7 0.0	7.4 5.1	7.9 4.3	3.6 3.7	4.4 1.3
職場で冷たい目で見られる	5.4 3.8	1.6 0.0	5.3 10.2	7.9 4.3	3.6 4.9	6.3 1.3
男性は、家事・育児・介護を行うべきでない	0.9 0.5	1.6 0.0	1.1 0.0	0.0 1.4	2.7 0.0	0.0 0.7
特にない	2.3 2.8	3.2 9.7	0.0 1.7	2.4 1.4	3.6 3.7	2.5 2.0
その他	1.4 3.3	3.2 0.0	0.0 0.0	0.8 4.3	0.9 1.2	2.5 6.0
無回答	0.4 1.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.9 0.0	0.6 2.6

2-4 男性の家事・育児時間が少ない理由

問7 他の先進国と比べて、日本の男性が家事や育児などに関わる時間が少ないとの統計結果がありますが、それはなぜだと思いますか。(〇はいくつでも)

(女性:554、男性:392)	全体	[%]	
		女性	男性
男性の仕事が忙しいから	57.2	56.7	57.9
休暇が取りにくいから	65.8	68.1	63.0
今までの慣習や風習があるから	67.2	73.6	58.2
昇進等に影響があると思うから	23.1	25.3	20.2
仕事を休むことによる 経済的損失が大きいから	38.9	39.5	38.0
家事・育児・介護に自信がないから	14.3	12.3	16.8
家事・育児・介護に対する 男性の意識が低いから	55.1	60.6	47.2
その他	2.5	2.5	2.3
無回答	0.4	0.2	0.8

回答者が多い項目をあげると、「今までの慣習や風習があるから」が67.2%、「休暇が取りにくいから」が65.8%、「男性の仕事が忙しいから」が57.2%、「家事・育児・介護に対する男性の意識が低いから」が55.1%となっている。

2-5 家事や育児・介護等の家庭内の役割を男性も担うために重要なこと

問8 家事や育児、介護などの家庭内の役割を男性も担うには、どうしたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

(n=954)	行政が、男性の家事・育児・介護への参加を促す啓発活動・学習活動を実施する	家庭で男性に家事・育児・介護への参加を強く要望する	男性も家事・育児・介護の仕方自身をつける	女性が経済的に自立する	男性の労働時間を短くする	働き方(就業の時間や場所)を個人の裁量で決められるようにする	その他	男性が家事・育児・介護を担う必要はない	[%]
									無回答
全体	34.1	15.9	56.9	23.7	42.6	47.7	8.0	1.7	1.2
女性全体 (554)	37.9	19.3	61.0	26.5	37.2	48.0	8.1	1.4	1.1
10-20歳代 (63)	28.6	17.5	49.2	30.2	41.3	50.8	11.1	1.6	0.0
30歳代 (94)	30.9	23.4	51.1	27.7	48.9	51.1	13.8	3.2	0.0
40歳代 (127)	31.5	17.3	52.8	26.0	47.2	52.0	10.2	2.4	0.0
50歳代 (110)	38.2	16.4	64.5	34.5	26.4	45.5	3.6	0.0	2.7
60歳以上 (160)	50.6	21.3	75.6	19.4	28.1	43.8	5.0	0.6	1.9
男性全体 (392)	28.3	11.2	51.3	19.9	50.0	47.2	7.7	2.0	1.3
10-20歳代 (31)	12.9	6.5	41.9	9.7	58.1	61.3	0.0	0.0	0.0
30歳代 (59)	32.2	10.2	33.9	25.4	57.6	62.7	8.5	5.1	0.0
40歳代 (70)	20.0	10.0	45.7	24.3	57.1	44.3	12.9	0.0	0.0
50歳代 (81)	29.6	7.4	58.0	18.5	55.6	49.4	3.7	1.2	1.2
60歳以上 (151)	33.1	15.2	58.9	18.5	39.1	38.4	8.6	2.6	2.6

家事や育児・介護等の家庭内の役割を男性も担うために重要なこととしては、「男性も家事・育児・介護の仕方を身につける」が56.9%、以下、「働き方(就業の時間や場所)を個人の裁量で決められるようにする」(47.7%)、「男性の労働時間を短くする」(42.6%)の順で続いている。

性別で見ると、女性では「男性も家事・育児・介護の仕方を身につける」が61.0%、男性では51.3%となっている。

男性の場合、10-20歳代、30歳代で、「働き方(就業の時間や場所)を個人の裁量で決められるようにする」が60%以上となっている。

3 子育て・教育について

3-1 子どもを育てる際の性別の意識

問9 子どもを育てる場合、どのようにしたいと思いますか。(〇は1つ)

[%]

	全体	女性	男性
性別によって 育て方を変えた方がよい	18.3	13.9	24.2
女の子も男の子も、同じように 区別しないで育てた方がよい	54.7	58.1	50.0
どちらとも言えない(わからない)	24.7	26.0	23.2
無回答	2.2	2.0	2.6

子どもを育てる場合の意識としては、「女の子も男の子も、同じように区別しないで育てた方がよい」が 54.7%を占め、「性別によって育て方を変えた方がよい」(18.3%)を上回っている。また、「どちらとも言えない(わからない)」は 24.7%である。

なお、前回調査時より、「性別によって育て方を変えた方がよい」の回答が、男性・女性ともに減少している。(前回調査：全体 34.0%、女性 24.9%、男性 46.5%)

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10-20 歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
性別によって、 育て方を変えた方がよい	13.9 24.2	19.0 35.5	17.0 27.1	15.0 28.6	12.7 21.0	10.0 20.5
女の子も男の子も、同じように 区別しないで育てた方がよい	58.1 50.0	44.4 48.4	51.1 40.7	52.0 38.6	59.1 51.9	71.9 58.3
どちらとも言えない (わからない)	26.0 23.2	33.3 16.1	30.9 30.5	30.7 31.4	25.5 25.9	16.9 16.6
無回答	2.0 2.6	3.2 0.0	1.1 5.6	2.4 1.4	2.7 1.2	1.3 4.6

3-2 子どもの将来についての希望

問10 あなたは、これからの子どもたちに、どのように育ててほしいと思いますか。女の子と男の子の場合に分けて、選んでください。(〇は男女ごとにくつつでも)

[%]

	ア. 女の子の場合			イ. 男の子の場合		
	全体	性別 女性 男性		全体	性別 女性 男性	
経済力のある人	51.5	55.1	46.4	77.8	78.9	76.3
独立心・自立心のある人	66.4	72.7	57.1	79.4	82.1	75.3
判断力のある人	72.6	76.2	67.3	82.7	83.0	82.1
素直な人	78.9	79.2	78.3	73.5	75.8	69.9
思いやりのある人	92.5	92.4	92.3	88.2	89.7	85.7
身の回りことは自分でできる人	82.7	86.6	77.0	82.9	87.5	76.3
家庭を大事にする人	80.4	80.7	79.6	83.6	85.6	86.6
言葉遣いや礼儀作法がいい人	82.3	83.9	79.6	77.0	78.9	74.0
責任感のある人	75.9	78.9	71.4	87.0	86.6	87.5
世の中のために役に立つ人	53.7	56.0	50.3	59.3	59.6	58.9
国際的視野のある人	49.7	52.3	45.9	60.0	61.6	57.9
無回答	2.1	2.5	1.5	1.4	1.6	1.0

望ましい人間像として、女の子の場合、「思いやりのある人」が 92.5%で最も多く、以下「身の回りことは自分でできる人」(82.7%)、「言葉遣いや礼儀作法がいい人」(82.3%)、「家庭を大事にする人」(80.4%)の順で続いている。

男の子の場合、「思いやりのある人」が 88.2%で最も多く、以下、「責任感のある人」(87.0%)、「家庭を大事にする人」(83.6%)の順で続いている。

[性・年代別]

女の子の場合（上位3項目）

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10-20 歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳 以上
思いやりのある人	92.4	96.8	93.6	92.9	88.2	92.5
	92.3	87.1	94.9	94.3	88.9	93.4
身の回りのことは 自分でできる人	86.6	92.1	86.2	84.3	84.5	88.1
	77.0	86.6	78.0	82.9	80.2	71.5
言葉遣いや礼儀作法がいい人	83.9	96.8	87.2	86.6	72.7	82.5
	79.6	80.6	89.8	80.0	80.2	74.8

男の子の場合（上位3項目）

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10-20 歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳 以上
思いやりのある人	89.7	90.5	93.6	91.3	84.5	89.4
	85.7	83.9	84.7	91.4	84.0	84.8
責任感のある人	86.6	88.9	91.5	85.0	84.5	85.6
	87.5	83.9	88.1	87.1	92.6	85.4
家庭を大事にするのある人	85.6	90.5	93.6	84.3	84.5	80.6
	80.6	77.4	81.4	90.0	80.2	76.8

3-3 子育てを支援するために重要なこと

問 11 あなたは、社会全体で子育てを支援するために何が重要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

	[%]		
	全体	女性	男性
夫の家事や育児への協力	56.5	61.9	48.7
出産や子育てに関する情報提供や 相談窓口の充実	33.6	36.3	29.6
保育園の時間延長や夜間保育などの充実	56.9	55.6	58.9
病児・病後児保育や一時保育など 多様な保育サービスの充実	57.8	63.4	49.5
労働時間の短縮	44.8	42.1	48.7
フレックスタイムの導入や 在宅ワークなどの働き方の多様化	58.0	56.9	59.7
育児休業制度の利用促進	50.1	52.2	47.7
各種手当や乳幼児医療費の助成など 経済的支援	54.7	55.8	52.8
子育て世帯への住宅提供などの住宅対策	22.9	22.2	23.5
一人親世帯などに対する相談、生活支援	42.5	43.5	41.1
子育てを助け合う 地域ネットワークづくりの充実	41.6	42.4	40.1
子どもや保護者の交流できる場 (公園や児童館など)の整備、充実	30.0	30.3	29.1
その他	3.8	3.2	4.6
わからない	2.1	2.2	2.0
無回答	1.0	1.1	0.8

子育てを支援するために重要なこととしては、「フレックスタイムの導入や在宅ワークなどの働き方の多様化」が 58.0%、以下、「病児・病後児保育や一時保育など多様な保育サービスの充実」(57.8%)、「保育園の時間延長や夜間保育などの充実」(56.9%)の順で続いている。

性別で見ると、女性では「病児・病後児保育や一時保育など多様な保育サービスの充実」が 63.4%となっている。一方、男性では「フレックスタイムの導入や在宅ワークなどの働き方の多様化」が 59.7%となっている。

[性・年代別]

[上位4項目]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10-20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳 以上
フレックスタイムの導入や 在宅ワークなどの働き方の多様化	56.9 59.7	57.1 64.5	56.4 61.0	58.3 60.0	54.5 61.7	57.5 57.0
病児・病後児保育や一時保育など 多様な保育サービスの充実	63.4 49.5	65.1 38.7	67.0 50.8	60.6 50.0	60.9 43.2	64.4 54.3
保育園の時間延長や 夜間保育などの充実	55.6 58.9	68.3 54.8	56.4 59.3	46.5 60.0	53.6 55.6	58.8 60.9
夫の家事や育児への協力	61.9 48.7	54.0 41.9	69.1 39.0	59.8 55.7	61.8 48.1	62.5 51.0

3-4 男女平等な社会をつくるために家庭・学校や地域社会で重要な教育

問 12 家庭・学校や地域社会において、これからどんな教育が重要であると思いますか。次の（ア）～（ク）の項目ごとに1～4の中からあてはまるものを選んでください。

[%]

	重要である (計)		重要でない (計)		無回答	重要である (計)	重要でない (計)
	非常に重要であると思う	重要であると思う	あまり重要であるとは思わない	重要ではないと思う			
女らしい、あるいは男らしい遊びや習慣を押し付けないようにする	13.2	35.7	38.4	11.0	1.7	48.9	49.4
男女の区別なく、同じように家事の分担をさせる	26.3	51.9	17.6	3.1	1.0	78.2	20.7
出席簿や座席など、男女で分ける習慣をなくす	8.7	21.4	51.4	17.1	1.5	30.1	68.5
男女の区別なく、能力や個性を生かせるように指導する	47.5	46.2	3.9	1.3	1.2	93.7	5.2
男女の差別的な社会の仕組みや歴史について、認識を深める	17.7	47.1	28.4	4.7	2.1	64.8	33.1
校長・教頭などに女性を積極的に登用する	11.5	33.8	43.5	9.9	1.4	45.3	53.4
性についての正しい十分な教育を行う	32.6	52.9	11.6	1.5	1.4	85.5	13.1
多様な結婚観・家庭観があることを教える	27.0	45.5	22.4	3.4	1.7	72.5	25.8

「非常に重要であると思う」と「重要であると思う」を合わせた「重要である（計）」の多い順に整理すると、「男女の区別なく、能力や個性を生かせるように指導する」が93.7%で、前回調査と同様に最も多く、以下、「性についての正しい十分な教育を行う」（85.5%）、「男女の区別なく、同じように家事の分担をさせる」（78.2%）、「多様な結婚観・家庭観があることを教える」（72.5%）、「男女の差別的な社会の仕組みや歴史について、認識を深める」（64.8%）と、前回調査と同様の順で続いている。

〔性・年代別〕

性別で見ると、「男女の区別なく、能力や個性を生かせるように指導する」を「重要である（計）」という人は、女性でも男性でも90%を上回っている。また、「性についての正しい十分な教育を行う」についても、女性、男性ともに「重要である（計）」という人が80%以上となっている。

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	重要である (計)		重要でない (計)		無回答	重要で ある (計)	重要で ない (計)
	非常に 重要で あると 思う	重要で あると 思う	あまり 重要で あると は思わ ない	重要で はない と思う			
女らしい、あるいは男らしい遊びや 習慣を押し付けないようにする	15.0 11.0	40.4 29.3	35.7 42.1	6.9 16.6	2.0 1.0	55.4 40.3	42.6 58.7
男女の区別なく、同じように 家事の分担をさせる	32.9 16.8	50.5 54.3	14.4 22.2	1.1 5.9	1.1 0.8	83.4 71.1	15.5 28.1
出席簿や座席など、 男女で分ける習慣をなくす	8.8 8.2	20.2 23.0	55.2 46.4	14.1 21.4	1.6 1.0	29.0 31.2	69.3 67.8
男女の区別なく、 能力や個性を生かせるように指導する	48.6 46.2	46.8 45.9	2.7 5.4	0.9 1.5	1.1 1.0	95.4 92.1	3.6 6.9
男女の差別的な社会の仕組みや 歴史について、認識を深める	19.3 15.3	48.2 45.4	26.5 31.6	3.1 6.9	2.9 0.8	67.5 60.7	29.6 38.5
校長・教頭などに女性を 積極的に登用する	11.2 11.7	36.8 29.6	45.5 41.3	5.1 16.3	1.4 1.0	48.0 41.3	50.6 57.6
性についての正しい十分な教育を行う	36.3 27.3	53.1 53.1	8.5 16.1	0.7 2.6	1.4 1.0	89.4 80.4	9.2 18.7
多様な結婚観・家庭観があることを 教える	29.8 23.7	44.9 46.2	21.3 24.0	2.0 5.1	2.0 1.0	74.7 69.9	23.3 29.1

4 職業（就業）について

4-1 職場での差別の有無

（問 13～16 については、現在お仕事をされている方のみ回答）

問 13 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で差別がありますか。（○は1つ）

	全体 (657)	女性 (346)	男性 (307)
差別がある	28.5	23.7	33.9
差別はない	65.1	69.4	61.2
無回答	5.9	6.9	4.9

職場での差別の有無は、「差別がある」が 28.5%、「差別はない」が 65.1%となっている。

4-2 職場での差別の内容

(問 13 で「1. 差別がある」とお答えの方に)

問 13-1 具体的にどのようなことがありますか。(〇はいくつでも)

		[%]	
	全体 (187)	女性 (82)	男性 (104)
賃金に男女差がある	39.0	43.9	35.6
昇給、昇格に男女差がある	41.7	41.5	41.3
性別によって能力を適正に評価しない	26.7	28.0	26.0
性別によって配置場所が限られている	40.6	37.8	43.3
性別によって仕事内容が決められてしまう	46.0	39.0	51.9
女性を幹部に登用しない	31.6	22.0	38.5
結婚や出産で 退職しなければならない雰囲気がある	17.6	19.5	16.3
育児・介護休業(休暇)の制度を 利用しにくい雰囲気がある	31.6	28.0	34.6
中高年以上の女性に 退職を勧める雰囲気がある	11.2	15.9	7.7
女性が教育や研修等を受ける機会がない	9.6	11.0	8.7
その他	8.0	9.8	6.7
無回答	0.5	0.0	1.0

職場に「差別がある」という人にその内容を聞いたところ、「性別によって仕事内容が決められてしまう」が46.0%で最も多く、以下、「昇給、昇格に男女差がある」(41.7%)、「性別によって配置場所が限られている」(40.6%)、「賃金に男女差がある」(39.0%)の順で続いている。

性別で見ると、女性では「賃金に男女の差がある」が43.9%となっているほか、「昇給、昇格に男女差がある」も41.5%となっている。一方、男性では「性別によって仕事内容が決められてしまう」が51.9%となっている。また、「性別によって配置場所が限られている」も43.3%となっている。

4-3 生活の中で優先したいもの

問 14 あなたが、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・趣味など）のうち優先したいものはどれですか。次の1～8の中から、あなたの理想と現状を1つずつ選んでください。

上段：(1)理想[%]

下段：(2)現実[%]

		全体 (657)	女性 (346)	男性 (307)
「仕事」を優先	したい	1.0	0.5	1.8
	している	20.1	13.0	30.4
「家庭生活」を優先	したい	9.2	9.6	8.9
	している	6.9	9.6	3.3
「地域・個人の生活」を優先	したい	1.3	1.1	1.5
	している	0.8	0.9	0.8
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	したい	18.3	16.6	20.7
	している	23.9	22.6	26.0
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	したい	2.5	2.0	3.3
	している	3.2	2.5	4.3
「家庭生活」を「地域・個人の生活」とともに優先	したい	9.6	7.8	12.5
	している	1.8	0.9	3.1
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	したい	22.1	20.2	25.0
	している	6.3	6.1	6.4
	わからない	1.4	0.9	1.8
		2.5	3.1	1.5
	無回答	3.4	3.8	2.8
		3.2	3.8	2.6

理想として、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい人が22.1%と多いが、現実に優先している人は6.3%となっている。「仕事」を優先したい人は1.0%だが、現実には20%の人が「仕事」を優先していると回答している。

※家庭生活

家族とともに過ごすこと。家事（食事の支度・片付け、掃除、洗濯など）、育児、余暇、介護、看護など。

※地域・個人の生活

学習・研究、趣味、娯楽、スポーツ、ボランティア活動、社会活動、交際・つきあいなど。

4-4 職場での子育てへの配慮

問15 あなたの職場では、子育て中の社員に対し、どのような勤務上の配慮がありますか。
 (ア)～(ケ)について、1～3の中からあてはまるものを選んでください。

(n= 657)	[%]			
	あり	なし	わからない	無回答
育児休業制度	60.9	16.4	15.4	7.3
配偶者出産休暇制度	36.5	26.2	29.1	8.2
育児休業中の情報提供や研修	14.9	40.0	35.8	9.3
育児休業中の経済的支援	24.8	34.4	31.8	9.0
事業所内託児施設の設置・運営	7.3	67.0	16.3	9.4
ハンドブック等による制度紹介	17.2	40.9	33.2	8.7
子の看護休暇制度	25.9	34.2	30.9	9.0
短時間勤務制度	48.9	24.5	18.3	8.4
転勤の免除等	15.1	35.0	40.5	9.4

職場における「子育てへの配慮」について、制度が「あり」の多い順に整理すると、「育児休業制度」が60.9%で最も多く、以下、「短時間勤務制度」(48.9%)、「配偶者出産休暇制度」(36.5%)、の順に続いている。

[性別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

(女性：346 男性：307)	あり	なし	わからない	無回答
育児休業制度	54.0	18.8	17.6	9.5
	68.7	13.7	12.7	4.9
配偶者出産休暇制度	24.3	28.6	36.7	10.4
	50.5	23.5	20.2	5.9
育児休業中の情報提供や研修	11.6	40.5	36.4	11.6
	18.9	39.1	35.2	6.8
育児休業中の経済的支援	22.0	32.1	35.0	11.0
	28.3	36.5	28.3	6.8
事業所内託児施設の設置・運営	9.8	58.4	19.9	11.8
	4.6	76.5	12.1	6.8
ハンドブック等による制度紹介	13.3	38.2	37.3	11.3
	21.5	44.0	28.7	5.9
子の看護休暇制度	24.3	30.3	34.4	11.0
	28.0	38.1	27.0	6.8
短時間勤務制度	47.7	21.7	19.9	10.7
	50.2	27.7	16.3	5.9
転勤の免除等	9.8	32.1	46.2	11.8
	20.8	38.1	34.2	6.8

4-5 子育て支援制度利用にあたっての不安

(問 15 の「(ア) 育児休業制度」で「1 あり」とお答えの方に)
 問 15-1 制度利用にあたって不安はありますか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体 (400)	女性 (187)	男性 (211)
職場の周囲の人の負担増	55.8	52.4	58.8
育児休業中の収入	35.8	31.0	40.3
利用後の仕事復帰	40.5	41.7	39.3
昇進などへの影響	16.3	9.1	22.7
まわりの目	21.3	19.8	22.7
その他	4.0	4.8	3.3
特に不安はない	18.5	19.3	18.0
無回答	2.3	2.1	2.4

育児休業制度のある職場に勤めている人に、利用するにあたっての不安の内容をきいたところ、「職場の周囲の人の負担増」が 55.8%で最も多く、以下、「利用後の仕事復帰」(40.5%)、「育児休業中の収入」(35.8%)の順で続いている。

特に、男性の回答で、「昇進などへの影響」が、女性と比べ多くなっている。

【性別】

「職場の周囲の人の負担増」は、女性・男性ともに全世代で高い回答となっている。

「育児休業中の収入」は、10-20歳代と60歳以上では女性の方が高いが、30歳代から50歳代では男性が高い回答数となっている。

「昇進などへの影響」は、休業制度があると答えた人のうち、10-20歳代から50歳代の男性の4人に1人が、「不安に感じている」と答えていることになる。

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

(女性：187 男性：211)	10-20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
職場の周囲の人の負担増	55.2	68.9	43.9	44.1	50.0
	40.0	72.1	56.0	61.8	50.9
育児休業中の収入	55.2	20.0	28.1	26.5	36.4
	40.0	58.1	44.0	34.5	28.3
利用後の仕事復帰	55.2	51.1	40.4	26.5	31.8
	20.0	48.8	36.0	45.5	32.1
昇進などへの影響	13.8	11.1	8.8	8.8	0.0
	30.0	25.6	24.0	27.3	13.2
まわりの目	20.7	20.0	17.5	20.6	22.7
	20.0	37.2	16.0	21.8	18.9
その他	6.9	2.2	5.3	8.8	0.0
	10.0	2.3	4.0	1.8	3.8
特に不安はない	13.8	11.1	26.3	23.5	18.2
	30.0	7.0	22.0	18.2	20.8
無回答	0.0	2.2	0.0	0.0	13.6
	0.0	0.0	0.0	1.8	7.5

4-6 育児休業などの取得経験

問 16 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・子の看護休暇・介護休業・介護休暇を取得できる制度があります。この制度を活用して育児休業などを取得したことがありますか。次の(ア)～(エ)について、あてはまる番号を選んでください。

[%]

	取得したことがある	取得したことがない				取得したことがない(計)	
		職場に制度がなかった	ない 在職中に育児・介護をしたことが	取得しなくても育児・介護に対応できた	取得できなかったが、事情により		
n=657 (女性：346 男性：307)							
(ア) 育児休業	全体	11.6	20.7	39.3	11.1	4.4	75.5
	女性	20.5	15.9	42.8	3.8	2.9	65.4
	男性	1.6	25.7	35.8	19.2	6.2	86.9
(イ) 子の看護休暇	全体	5.5	26.2	40.3	12.0	2.7	81.2
	女性	7.2	23.4	43.4	9.0	2.6	78.4
	男性	3.6	29.0	37.5	15.3	2.9	84.7
(ウ) 介護休業	全体	0.6	19.3	55.1	9.1	2.1	85.6
	女性	0.9	15.9	60.4	4.9	2.3	83.5
	男性	0.3	22.8	49.5	14.0	2.0	88.3
(エ) 介護休暇	全体	1.5	19.0	54.9	9.0	1.8	84.7
	女性	1.7	16.5	60.1	4.6	1.7	82.9
	男性	1.3	21.5	49.5	14.0	2.0	87.0

女性・男性ともに、高い割合で「取得したことがない」と回答している。「在職中に育児・介護をしたことがない」が一番高いが、「職場に制度がなかった」も、2割前後の回答率となっている。

なお、前回と比較し、女性で「育児休業を取得したことがある」の回答者が増加している。(前回調査6.2%)

4-6 女性が仕事をもつことについての考え

問 17 女性が仕事をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

	全体	女性	男性
結婚や出産にかかわらず、 仕事をもち続けた方がよい	30.0	28.5	31.9
結婚や出産などで一時退職し、子どもが 大きくなったら再び仕事をもつ方がよい	15.3	13.0	18.9
子どもができるまで働く方がよい	2.2	1.1	3.8
結婚するまで働く方がよい	1.0	0.5	1.8
結婚や出産をしても仕事を続けた方が よいと思うが、現実的には難しい	20.9	24.4	16.1
生涯仕事をもたない方がよい	0.2	0.0	0.5
結婚や出産後は、パートタイム（短時間労働） に切り替えるなど負担を軽くする方がよい	12.8	13.5	11.7
その他	6.0	5.2	7.1
わからない	2.8	3.8	1.5
無回答	8.8	9.9	6.6

望ましい女性のライフコースとして、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい」という「就労継続型」が最も多い結果となった。次いで、「結婚や出産をしても仕事を続けた方がよいと思うが、現実的には難しい」が、20.9%を占めている。

また、「結婚や出産などで一時退職し、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」、「結婚や出産後は、パートタイムに切り替えるなど負担を軽くする方がよい」が、いずれも10%代となっている。

[性・年代別]

女性の場合、10-20歳代、40歳代、50歳代では、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい」という「就労継続型」が3割前後を占めている。次いで、「結婚や出産をしても仕事を続けた方がよいと思うが、現実的には難しい」が、女性全体で24.4%を占めている。

男性の場合も、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい」が最も多く、10-20歳代、30歳代、50歳代では4割前後を占めている。次いで、「結婚や出産などで一時退職し、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が、男性全体で18.9%を占めている。

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10-20 歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
結婚や出産にかかわらず、 仕事をもち続けた方がよい	28.5	31.7	24.5	29.9	34.5	24.4
	31.9	38.7	40.7	25.7	37.0	27.2
結婚や出産などで一時退職し、 子どもが大きくなったら 再び仕事をもつ方がよい	13.0	11.1	13.8	10.2	14.5	14.4
	18.9	22.6	16.9	18.6	18.5	19.2
子どもができるまで働く方がよい	1.1	1.6	2.1	0.8	0.9	0.6
	3.8	3.2	1.7	2.9	3.7	5.3
結婚するまで働く方がよい	0.5	0.0	1.1	0.0	0.9	0.6
	1.8	0.0	3.4	0.0	0.0	3.3
結婚や出産をしても 仕事を続けた方がよいと思うが、 現実的には難しい	24.4	15.9	24.5	24.4	24.5	27.5
	16.1	9.7	16.9	17.1	14.8	17.2
生涯仕事をもたない方がよい	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	0.5	0.0	1.7	0.0	0.0	0.7
結婚や出産後は、パートタイム (短時間労働)に切り替えるなど 負担を軽くする方がよい	13.5	20.6	14.9	15.7	11.8	9.4
	11.7	9.7	8.5	11.4	13.6	12.6
その他	5.2	11.1	6.4	7.1	3.6	1.9
	7.1	6.5	6.8	12.9	7.4	4.6
わからない	3.8	1.6	4.3	7.1	4.5	1.3
	1.5	3.2	0.0	2.9	2.5	0.7
無回答	9.9	6.3	8.5	4.7	4.5	20.0
	6.6	6.5	3.4	8.6	2.5	9.3

4-7 男女が共に仕事と家庭を両立するために必要な環境整備

問 18 男女が共に仕事や家庭、地域活動、趣味・娯楽などを両立していくためには、どのような取り組みが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体	女性	男性
育児・介護休業や休暇を利用しやすい職場環境を整備する	72.5	73.5	71.2
育児・介護休業中の賃金や手当などの 経済的支援を充実する	58.5	57.9	59.7
地域の保育所や学童保育の整備、 保育時間の延長など保育内容を充実する	51.5	51.3	52.6
職場内に保育施設を整備する	34.5	39.5	27.6
在宅勤務、フレックスタイム制度など、 柔軟な勤務制度を導入する	54.0	51.6	57.4
残業を減らすなど、年間労働時間を短縮する	44.9	44.6	45.4
育児・介護休業の取得後に 職場復帰しやすい環境を整備する	53.9	56.1	51.0
育児のための円滑な職種転換の促進、見直しを図る	23.3	24.4	22.2
管理職の意識や男性中心の職場運営を見直す	34.4	34.8	34.2
仕事と家庭を両立させていく事に対し、周囲の理解を得る	47.6	53.1	40.3
両立支援に関する情報を提供する	17.6	18.6	16.6
再就職に関する相談や支援体制を充実させる	29.1	32.1	25.3
パートタイマーなど 非正規社員・職員の労働条件を改善する	44.8	50.0	37.5
その他	2.1	2.0	2.3
わからない	3.1	3.6	2.6
無回答	0.5	0.4	0.3

男女が共に仕事と家庭を両立させるために必要な職場環境としては、「育児・介護休業や休暇を利用しやすい職場環境を整備する」が72.5%で最も多く、以下、「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する」(58.5%)、「在宅勤務、フレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」(54.0%)、「育児・介護休業の取得後に職場復帰しやすい環境を整備する」(53.9%)の順で続いている。

性別で見ると、女性の場合、「パートタイマーなど非正規社員・職員の労働条件を改善する」が5割となっている。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10-20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳 以上
育児・介護休業や休暇を取得しやすい職場環境を整備する	73.5 71.2	79.4 83.9	73.4 76.3	66.9 67.1	71.8 71.6	77.5 68.2
育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する	57.9 59.7	65.1 67.7	58.5 74.6	61.4 65.7	58.2 58.0	51.9 50.3
地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実する	51.3 52.6	54.0 54.8	53.2 52.5	52.0 51.4	43.6 43.2	53.8 57.6
職場内に保育施設を整備する	39.5 27.6	39.7 54.8	43.6 23.7	40.9 30.0	32.7 22.2	40.6 25.2
在宅勤務、フレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する	51.6 57.4	52.4 71.0	53.2 52.5	55.9 58.6	45.5 60.5	51.3 54.3
残業を減らすなど、年間労働時間を短縮する	44.6 45.4	57.1 67.7	53.2 49.2	48.0 55.7	35.5 45.7	38.1 34.4
育児・介護休業の取得後に職場復帰しやすい環境を整備する	56.1 51.0	52.4 67.7	55.3 40.7	52.0 54.3	53.6 42.0	63.1 55.0
育児のための円滑な職種転換の促進、見直しを図る	24.4 22.2	22.2 19.4	29.8 25.4	26.0 30.0	26.4 19.8	19.4 19.2
管理職の意識や男性中心の職場運営を見直す	34.8 34.2	30.2 41.9	34.0 32.2	33.1 32.9	30.0 32.1	41.9 35.1
仕事と家庭を両立させていく事に対し、周囲の理解を得る	53.1 40.3	61.9 71.0	62.8 35.6	51.2 37.1	47.3 34.6	49.4 40.4
両立支援に関する情報提供等	18.6 16.6	25.4 32.3	14.9 13.6	22.8 12.9	10.0 13.6	20.6 17.9
再就職に関する相談や支援体制を充実させる	32.1 25.3	39.7 35.5	33.0 16.9	31.5 21.4	27.3 22.2	32.5 29.8
パートタイマーなど非正規社員・職員の労働条件を改善する	50.0 37.5	38.1 35.5	46.8 35.6	52.0 22.9	55.5 34.6	51.3 47.0
その他	2.0 2.3	1.6 0.0	5.3 1.7	2.4 2.9	0.9 1.2	0.6 3.3
わからない	3.6 2.6	3.2 3.2	3.2 0.0	4.7 0.0	3.6 4.9	3.1 3.3
無回答	0.4 0.3	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	1.3 0.7

5 地域活動について

5-1 参加した地域活動

問 19 あなたは、この1年間、どのような地域活動に参加していましたか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体	女性	男性
スポーツなど健康増進のための活動	14.7	12.3	17.9
趣味や文化・教養を高めるための活動	15.1	15.5	14.5
町内会や自治会の活動	29.4	29.1	29.6
P T Aなどの学校関係活動	13.7	19.1	6.1
子ども会の活動	3.8	5.2	1.5
各種女性団体の活動	0.7	1.3	0.0
高齢者クラブの活動	2.0	1.4	2.8
消防団の活動	1.2	0.9	1.5
国際交流関係の活動	1.5	1.3	1.8
子育て支援活動	2.6	3.6	1.3
消費生活関係の活動	0.6	0.9	0.3
自然保護関係の活動	1.9	1.6	2.3
文化財保護活動	0.7	0.5	1.0
防犯・防災関係の活動	3.1	2.2	4.3
商店街活動	0.1	0.0	0.3
その他	1.8	1.4	2.3
特になし	47.7	47.1	49.2
無回答	0.7	0.5	0.5

この一年間に参加した活動としては、「町内会や自治会の活動」が29.4%で最も多く、以下、「趣味や文化・教養を高めるための活動」(15.1%)、「スポーツなど健康増進のための活動」(14.7%)の順で続いている。

性別で見ると、女性では「P T Aなどの学校関係活動」が19.1%と、男性(6.1%)より多くなっている。

5-2 地域活動に参加しない理由

(問19で「17. 特になし」とお答えの方に)

問19-1 こうした活動に参加しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

	[%]		
	全体 (455)	女性 (261)	男性 (193)
仕事が忙しいから	38.9	35.2	44.0
家事や育児が忙しいから	12.5	17.6	5.7
家族を介護しているから	3.5	4.2	2.6
自分の健康上の理由から	8.8	10.0	7.3
家族の協力や理解が得られないから	0.9	0.4	1.6
職場の理解が得られないから	1.1	0.4	2.1
ひとりでは参加しにくいから	21.8	24.9	17.6
活動や交流の場所がないから	12.7	11.1	15.0
こうした活動を担うリーダーがないから	0.7	0.8	0.5
人間関係がわずらわしいから	17.4	16.5	18.1
参加したい活動がないから	17.4	16.5	18.7
こうした活動には興味がないから	19.6	18.0	21.8
こうした活動に関する情報がないから	20.2	20.7	19.7
その他	7.0	7.3	6.7
無回答	0.0	0.0	0.0

地域活動に参加した経験のない人にその理由を聞いたところ、「仕事が忙しいから」が38.9%で最も多く、以下、「ひとりでは参加しにくいから」(21.8%)、「こうした活動に関する情報がないから」(20.2%)、「こうした活動には興味がないから」(19.6%)の順で続いている。

性別で見ると、女性では「家事や育児が忙しいから」が17.6%と、男性(5.7%)を上回っている。

6 人権について

6-1 女性の人権が侵害されていると感じること

問20 あなたは、女性の人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことについてでしょうか。(〇はいくつでも)

	[%]		
	全体	女性	男性
男女の固定的な役割分担意識 (「家事は女性」等)や差別的扱い	49.3	56.0	40.1
職場などにおける差別待遇 (女性が管理職になりにくい等)	36.9	36.8	37.0
セクシャル・ハラスメント (性的いやがらせ)	45.5	44.2	47.4
配偶者や交際相手からの暴力	30.8	29.8	32.4
配偶者や交際相手からの 一方的なセックスの強要	21.2	21.8	20.4
女性へのストーカー行為等	36.4	33.2	41.1
レイプ(強姦)などの女性への 性暴力や痴漢などのわいせつ行為	50.7	49.1	53.8
売春・買春・援助交際・JKビジネス	29.1	32.5	24.7
女性のヌード写真を掲載した雑誌など	16.7	20.0	12.0
女性の体の一部などを強調し、 内容と無関係に使用した広告	18.9	21.5	15.3
ポルノ映画・アダルトビデオ	14.8	17.3	11.2
その他	1.4	1.1	1.8
特に感じない	8.7	7.4	10.7
わからない	5.9	7.2	4.1
無回答	1.9	1.4	1.8

女性の人権が侵害されていると感じることとしては、「レイプ(強姦)などの女性への性暴力や痴漢などのわいせつ行為」が50.7%で最も多く、以下、「男女の固定的な役割分担意識や差別的扱い」(49.3%)、「セクシャル・ハラスメント(性的いやがらせ)」(45.5%)の順で続いている。

性別で見ると、女性では「男女の固定的な役割分担意識や差別的扱い」が56.0%と、男性(40.1%)を上まわっている。

【性・年代別】

女性の場合、40歳代では「レイプ（強姦）などの女性への性暴力や痴漢などのわいせつ行為」が57.5%と、全年代中最も多くなっている。また、「セクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ）」が5割前後を占めている。

男性の場合も、10-20歳代では「職場などにおける差別待遇（女性が管理職になりにくい等）」が51.6%と全年代中最も多くなっている。また、50歳代、60歳以上では「売春・買春・援助交際・JKビジネス」がそれぞれ28.4%、29.8%と他の年代よりも多くなっている。

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10-20 歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
男女の固定的な役割分担意識や 差別的扱い	56.0 40.1	58.7 48.4	58.5 39.0	53.5 38.6	51.8 34.6	58.1 42.4
職場などにおける差別待遇 (女性が管理職になりにくい等)	36.8 37.0	44.4 51.6	38.3 28.8	33.1 35.7	32.7 28.4	38.8 42.4
セクシャル・ハラスメント (性的いやがらせ)	44.2 47.4	42.9 51.6	44.7 45.8	49.6 47.1	42.7 51.9	41.3 45.0
配偶者や交際相手からの暴力	29.8 32.4	27.0 45.2	34.0 32.2	33.9 37.1	31.8 30.9	23.8 28.5
配偶者や交際相手からの 一方的なセックスの強要	21.8 20.4	19.0 35.5	28.7 16.9	29.1 24.3	19.1 17.3	15.0 18.5
女性へのストーカー行為等	33.2 41.1	38.1 45.2	31.9 33.9	35.4 37.1	33.6 48.1	30.0 41.1
レイプ（強姦）などの女性への 性暴力や痴漢などのわいせつ行為	49.1 53.8	46.0 54.8	47.9 54.2	57.5 60.0	50.9 51.9	43.1 51.7
売春・買春・ 援助交際・JKビジネス	32.5 24.7	28.6 16.1	31.9 23.7	34.6 14.3	31.8 28.4	33.1 29.8
女性のヌード写真を 掲載した雑誌など	20.0 12.0	19.0 6.5	21.3 6.8	18.9 7.1	20.9 9.9	20.0 18.5
女性の体の一部などを強調し、 内容と無関係に使用した広告	21.5 15.3	19.0 6.5	21.3 15.3	22.0 11.4	25.5 11.1	19.4 21.2
ポルノ映画・アダルトビデオ	17.3 11.2	15.9 9.7	16.0 5.1	17.3 5.7	18.2 7.4	18.1 18.5
その他	1.1 1.8	1.6 3.2	2.1 0.0	0.8 2.9	0.0 2.5	1.3 1.3
特に感じない	7.4 10.7	9.5 9.7	4.3 15.3	12.6 5.7	3.6 9.9	6.9 11.9
わからない	7.2 4.1	15.9 6.5	8.5 5.1	5.5 8.6	9.1 4.9	3.1 0.7
無回答	1.4 1.8	0.0 0.0	2.1 1.7	0.0 1.4	0.9 2.5	3.1 2.0

6-2 ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験

問 21 あなたは、これまでに、あなたの夫や妻（事実婚や別居中、離別・死別を含む）または恋人などから、次のようなことをされたことがありますか。それぞれの項目ごとに1～3の中からあてはまるものを選んでください。

	経験がある（計）		まったく ない	無回答	経験が ある （計）
	何度も あった	1,2度 あった			
大声でどなられる	12.2	23.3	60.5	4.1	35.5
「だれのおかげで生活できるんだ」 とか「かいしょうなし」等と言われる	4.7	11.0	79.8	4.5	15.7
交友関係や電話を必要以上に、 細かく監視される	4.2	8.0	83.3	4.5	12.2
生活費を渡してくれない	4.0	3.8	87.2	5.0	7.8
何を言っても無視され続ける	3.8	11.4	79.8	5.0	15.2
見たくないのにポルノビデオや ポルノ雑誌を見せられる	0.3	1.0	93.8	4.8	1.3
あなたがいやがっているのに、 性的な行為を強要される	3.5	4.9	86.7	4.9	8.4
なぐるふりや、 刃物でおどされる	1.7	3.6	89.9	4.8	5.3
平手でうつ、なぐる、足でける などの暴行を受ける	2.5	6.6	86.3	4.6	9.1
子どもの前で 暴力をふるわれる	1.0	3.0	90.8	5.1	4.0
その他	0.6	0.3	22.6	76.4	0.9

ドメスティック・バイオレンスの経験の有無について、「経験がある（計）」の多い順にみると、「大声でどなられる」が35.5%で最も多く、以下、『だれのおかげで生活できるんだ』とか『かいしょうなし』等と言われる（15.7%）、「何を言っても無視され続ける」（15.2%）の順で続いている。

【性別】

性別でみると、女性では「大声でどなられる」について、「経験がある（計）」が40.2%を占めているほか、『だれのおかげで生活できるんだ』とか『かいしょうなし』等と言われる（18.6%）、「あなたがいやがっているのに、性的な行為を強要される」（13.0%）等が男性に比べて多くっており、特に「大声でどなられる」については、「何度もあった」が13.7%を占めている。

身体的暴力に注目してみると、女性の場合、「平手でうつ、なぐる、足でけるなどの暴行を受ける」については「経験がある（計）」が10.5%を占めており、「何度もあった」という人も2.9%いる。また、「子どもの前で暴力をふるわれる」について、女性で「経験がある（計）」が5.1%を占めている。

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	経験がある（計）		まったく ない	無回答	経験が ある （計）
	何度も あった	1,2度 あった			
大声でどなられる	13.7	26.5	56.1	3.6	40.2
	9.9	18.1	67.6	4.3	28.0
「だれのおかげで生活できるんだ」 とか「かいしょうなし」等と言われる	6.0	12.6	78.0	3.4	18.6
	2.8	8.9	82.9	5.4	11.7
交友関係や電話を必要以上に、 細かく監視される	5.6	9.7	81.2	3.4	15.3
	2.3	5.6	87.0	5.1	7.9
生活費を渡してくれない	6.1	4.5	85.0	4.3	10.6
	1.0	2.8	90.8	5.4	3.8
何を言っても無視され続ける	4.2	10.6	80.7	4.5	14.8
	2.8	12.5	79.3	5.4	15.3
見たくないのにポルノビデオや ポルノ雑誌を見せられる	0.5	1.6	93.7	4.2	2.1
	0.0	0.3	94.6	5.1	0.3
あなたがいやがっているのに、 性的な行為を強要される	5.4	7.6	82.7	4.3	13.0
	0.8	1.3	92.9	5.1	2.1
なぐるふりや、 刃物でおどされる	2.5	4.5	88.8	4.2	7.0
	0.5	2.0	92.3	5.1	2.5
平手でうつ、なぐる、足でける などの暴行を受ける	2.9	7.6	85.7	3.8	10.5
	2.0	5.4	87.5	5.1	7.4
子どもの前で 暴力をふるわれる	1.6	3.8	90.3	4.3	5.1
	0.3	2.0	92.1	5.6	2.3
その他	0.7	0.5	21.1	77.6	1.2
	0.5	0.0	25.3	74.2	0.5

6-3 ドメスティック・バイオレンス（DV）についての相談

（問21で「1. 何度もあった」か「2. 1、2度あった」に1つでも○があった方に）
問 21-1 そのことを、誰かに相談しましたか。（○は1つ）

[%]

	全体 (426)	女性 (277)	男性 (149)
相談した	17.8	23.8	4.7
相談しなかったが、相談しなかった	6.1	6.9	4.7
相談しようと思わなかった	59.4	51.3	73.2
どうしていいかわからなかった	3.5	4.7	1.3
無回答	14.8	13.4	16.1
相談しなかった（計）	69.0	62.9	79.2

ドメスティック・バイオレンスの経験者に、相談したことがあるかきいたところ、「相談した」は17.8%である。一方、「相談しなかったが、相談しなかった」は6.1%、「相談しようと思わなかった」は59.4%である。

性別でみると、女性では「相談した」が23.8%と男性（4.7%）より多くなっている。

【性・年代別】

女性の場合、10-20歳代、60歳以上では「相談しようと思わなかった」がそれぞれ52.6%、64.4%となっている。男性の場合、10-20歳代では「相談した」が33.3%と、他の年代より多くなっている。

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

(n=426)	全体	10-20 歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
相談した	24.1	31.6	29.8	29.2	33.9	8.9
	4.7	33.3	9.1	6.1	2.7	0.0
相談しなかったが、相談しなかった	6.9	0.0	17.0	9.2	1.8	4.4
	4.7	0.0	4.5	6.1	8.1	2.0
相談しようと思わなかった	51.8	52.6	34.0	47.7	48.2	64.4
	73.6	50.0	68.2	72.7	73.0	78.4
どうしていいかわからなかった	4.7	5.3	6.4	6.2	3.6	3.3
	1.4	0.0	0.0	3.0	2.7	0.0
無回答	13.5	10.5	12.8	7.7	12.5	18.9
	16.2	16.7	18.2	12.1	13.5	19.6
相談しなかった（計）	63.4	57.9	57.4	63.1	53.6	72.1
	79.7	50.0	72.7	81.8	83.8	80.4

6-4 ドメスティック・バイオレンス（DV）についての相談先

（問21-1で「1. 相談した」とお答えの方に）

問21-1-1 実際に、誰（どこ）に相談しましたか。（〇はいくつでも）

[%]

	全体 (76)	女性 (66)	男性 (7)
親族	69.7	74.2	42.9
役所の相談窓口・電話相談など	13.2	13.6	14.3
友人、知人	55.3	53.0	71.4
医師、カウンセラー	3.9	4.5	0.0
家庭裁判所、弁護士など	14.5	15.2	14.3
民生委員、人権擁護委員等	2.6	3.0	0.0
警察署	11.8	13.6	0.0
その他	0.0	0.0	0.0

相談したことがあるという人に、その相手をきいたところ、「親族」（69.7%）と「友人・知人」（55.3%）の2項目に集中している。

性別で見ると、女性では「親族」（74.2%）、男性では「友人、知人」（71.4%）が最も多くなっている。

6-5 ドメスティック・バイオレンス（DV）についての相談をしなかった理由

（問21-1で「2. 相談したかったが～」か「3. 相談しようと～」とお答えの方に）

問21-1-2 「誰（どこ）にも相談しなかった」のは、なぜですか。（〇はいくつでも）

	[%]		
	全体 (279)	女性 (161)	男性 (116)
誰（どこ）に相談してよいか、わからなかった	7.2	7.5	6.9
相談する人がいなかった	9.0	11.8	5.2
恥ずかしくて誰にもいえなかった	13.6	13.7	13.8
相談しても無駄だと思った	22.9	23.0	22.4
相談したことがわかると、 もっとひどい暴力を受けると思った	2.2	3.1	0.9
自分さえ我慢すれば、 このままやっていけると思った	19.7	19.9	19.8
子どもに危害が及ぶと思った	1.1	1.9	0.0
他人に迷惑をかけたくなかった	7.2	6.2	8.6
自分にも落ち度があると思った	28.3	21.7	37.9
相談するほどのことではないと思った	60.9	57.8	65.5
相談機関を知らなかった	2.9	3.1	2.6
その他	6.1	8.1	3.4
無回答	7.2	6.8	7.8

相談しなかったという人に、その理由をきくと、「相談するほどのことではないと思った」が60.9%で最も多く、以下、「自分にも落ち度があると思った」(28.3%)、「相談しても無駄だと思った」(22.9%)の順で続いている。

性別で見ると、男性では「相談するほどのことではないと思った」が65.5%、女性が57.8%となっている。

6-6 ドメスティック・バイオレンス（DV）防止・被害者支援のために必要な対策

問22 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）の防止および被害者支援のために、どのような対策が重要だと思いますか。（〇はいくつでも）

	[%]		
	全体	女性	男性
家庭内や恋人間でも暴力は犯罪であるという意識の啓発	69.2	73.5	63.3
いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備	59.4	63.2	54.6
緊急時の相談体制の充実	54.4	53.4	56.4
住居や就労の斡旋、経済的援助など、自立して生活するための支援策の充実	41.4	45.7	35.7
カウンセリングや日常的な相談など、精神的に自立するための支援策の充実	39.7	43.9	33.9
相談・支援するスタッフの意識と能力を高める	30.0	31.0	28.3
関係機関の紹介や暴力への対応方法など、ドメスティック・バイオレンスに関するいろいろな知識の提供	26.4	27.6	24.7
離婚訴訟への支援など、法的なサポートの充実	36.2	36.8	35.5
カウンセリングなど、加害者の更生に関する対応の充実	25.9	29.1	21.4
家庭・学校において子どもに対し暴力がいけない事だと教える	47.8	50.0	45.2
行政や警察による積極的な啓発活動	28.7	27.3	30.6
テレビ・週刊誌などのメディアの倫理規定・規制を強化	15.0	16.6	12.5
過激なビデオソフト、ゲームソフト、映画などの販売や貸し出しの禁止	23.9	29.4	16.1
法律による規制の強化や見直し	31.6	30.7	32.4
身近で配偶者やパートナーによる暴力に気付いたら周囲の人が通報することが大切であるという意識づくり	37.5	39.9	34.4
その他	1.8	1.8	1.8
わからない	4.5	4.7	4.3
無回答	2.0	1.4	2.3

※ドメスティック・バイオレンス（DV）：配偶者（事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む）または配偶者であった者から振るわれる暴力。

ドメスティック・バイオレンスの防止と被害者支援のために必要な対策としては、「家庭内や恋人間でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」が69.2%と最も多く、以下、「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」（59.4%）、「緊急時の相談体制の充実」（54.4%）の順で続いている。

性別でみると、女性の場合、「家庭内や恋人間でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」が73.5%と、男性（63.3%）より多くなっている。

【性・年代別】

女性の場合、40歳代、50歳代、60歳以上で「家庭内や恋人間でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」がそれぞれ74.0%、74.5%、76.9%となっている。また、30歳代、50歳代では「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」もそれぞれ7割に近い値となっている。

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10-20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
家庭内や恋人間でも暴力は犯罪であるという意識の啓発	73.5 63.3	65.1 67.7	71.3 61.0	74.0 70.0	74.5 60.5	76.9 61.6
いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備	63.2 54.6	57.1 64.5	69.1 55.9	63.8 55.7	67.3 55.6	58.8 51.0
緊急時の相談体制の充実	53.4 56.4	47.6 61.3	58.5 45.8	50.4 50.0	55.5 58.0	53.8 61.6
住居や就労の斡旋、経済的援助など、自立して生活するための支援策の充実	45.7 35.7	39.7 38.7	40.4 37.3	55.1 42.9	50.0 33.3	40.6 32.5
カウンセリングや日常的な相談など、精神的に自立するための支援策の充実	43.9 33.9	39.7 29.0	48.9 30.5	50.4 30.0	46.4 38.3	35.6 35.8
相談・支援するスタッフの意識と能力を高める	31.0 28.3	22.2 35.5	35.1 23.7	34.6 28.6	34.5 22.2	26.9 31.8
関係機関の紹介や暴力への対応方法など、ドメスティック・バイオレンスに関するいろいろな知識の提供	27.6 24.7	28.6 51.6	30.9 16.9	33.9 24.3	27.3 18.5	20.6 25.8
離婚訴訟への支援など、法的なサポートの充実	36.8 35.5	38.1 35.5	39.4 39.0	44.1 42.9	36.4 34.6	29.4 31.1
カウンセリングなど、加害者の更生に関する対応の充実	29.1 21.4	28.6 29.0	36.2 23.7	32.3 15.7	26.4 16.0	24.4 24.5
家庭・学校において子どもに対し暴力がいけない事だと教える	50.0 45.2	52.4 41.9	48.9 42.4	52.0 50.0	44.5 39.5	51.9 47.7
行政や警察による積極的な啓発活動	27.3 30.6	23.8 41.9	29.8 25.4	33.9 30.0	20.9 28.4	26.3 31.8
テレビ・週刊誌などのメディアの倫理規定・規制を強化	16.6 12.5	19.0 12.9	16.0 15.3	15.7 4.3	14.5 7.4	18.1 17.9
過激なビデオソフト、ゲームソフト、映画などの販売や貸し出しの禁止	29.4 16.1	17.5 6.5	26.6 6.8	33.9 11.4	28.2 16.0	33.1 23.8
法律による規制の強化や見直し	30.7 32.4	27.0 32.3	29.8 27.1	35.4 22.9	25.5 29.6	32.5 40.4
身近で配偶者やパートナーによる暴力に気付いたら、周囲の人が通報することが大切である、という意識づくり	39.9 34.4	47.6 38.7	43.6 35.6	41.7 34.3	34.5 29.6	36.9 35.8
その他	1.8 1.8	3.2 0.0	4.3 1.7	0.8 4.3	0.9 1.2	1.3 1.3
わからない	4.7 4.3	3.2 3.2	6.4 6.8	7.1 2.9	1.8 4.9	4.4 4.0
無回答	1.4 2.3	1.6 0.0	1.1 0.0	0.0 2.9	2.7 1.2	1.9 4.0

7 男女平等参画推進センター ミウズについて

7-1 男女平等参画推進センターの利用について

問23 男女平等参画社会の実現のための推進事業や、団体・事業者の方々を支援するための拠点施設として、男女平等参画推進センター（レイクピアウスイ3階）を設置しています。あなたは、男女平等参画推進センターの施設や講座などを利用していますか。（○は1つ）

[%]

		全体	女性	男性
利用している（計）	よく利用している	0.5	0.9	0.0
	利用したことがある	4.4	5.6	2.8
利用したことがない（計）	知っているが、利用したことはない	27.3	33.9	17.9
	知らない	63.0	54.7	75.0
知らないが、今後利用してみたい		2.8	2.7	3.1
その他		0.4	0.5	0.3
無回答		1.6	1.6	1.0
利用している（計）		4.9	6.5	2.8
利用したことがない（計）		90.3	88.6	92.9

7-2 男女平等参画推進センターに期待すること

問 24 今後、男女平等参画推進センターが、力をいれて実施したほうが良いと思う事業は何ですか。(〇はいくつでも)

	[%]		
	全体	女性	男性
女性の就業・チャレンジ支援などに関する講座の充実	39.2	41.5	36.5
女性の職場での活躍に資する講座や情報提供	25.5	27.8	22.2
男性の家事・育児・介護などへの参加促進に向けた講座の充実	40.0	41.2	39.0
NPOやボランティア団体などへの活動の場の提供	17.9	18.4	17.6
子育てや介護などを担っている方への情報提供や講座の充実	43.0	47.8	36.5
女性からの相談体制の強化	29.8	28.0	32.4
男性からの相談体制の整備	19.2	16.4	23.0
DVに関する情報提供の強化	17.6	16.2	19.6
地域リーダー等の養成支援	9.6	7.6	12.8
国や地方自治体から発信される情報の提供の強化	19.1	19.5	18.9
その他	4.8	4.5	5.4
無回答	6.1	5.8	5.4

男女平等参画推進センターが、力をいれて実施した方が良いと思う事業としては、「子育てや介護などを担っている方への情報提供や講座の充実」が43.0%で最も多く、以下、「男性の家事・育児・介護などへの参加促進に向けた講座の充実」(40.0%)、「女性の就業・チャレンジ支援などに関する講座の充実」(39.2%)の順で続いている。

性別で見ると、女性の場合、「子育てや介護などを担っている方への情報提供や講座の充実」が47.8%と男性(36.5%)より多くなっている。

[性・年代別]

女性の場合、10-20 歳代、60 歳以上で「子育てや介護などを担っている方への情報提供や講座の充実」がそれぞれ 49.2%、53.8%と、他の年代より多くなっている。

また、男性の場合、10-20 歳代で「男性の家事・育児・介護などへの参加促進に向けた講座の充実」、「男性からの相談体制の整備」で、それぞれ 58.1%、45.2%と他の年代より多くなっている。

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10-20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
女性の就業・チャレンジ支援 などに関する講座の充実	41.5 36.5	44.4 25.8	34.0 37.3	44.9 30.0	38.2 39.5	44.4 39.7
女性の職場での活躍に資する 講座や情報提供	27.8 22.2	38.1 25.8	31.9 25.4	27.6 18.6	25.5 25.9	23.1 19.9
男性の家事・育児・介護 などへの参加促進に向けた 講座の充実	41.2 39.0	44.4 58.1	41.5 33.9	41.7 31.4	35.5 43.2	43.1 38.4
NPOやボランティア団体 などへの活動の場の提供	18.4 17.6	14.3 12.9	18.1 13.6	15.7 12.9	19.1 14.8	21.9 23.8
子育てや介護などを 担っている方への情報提供	47.8 36.5	49.2 45.2	39.4 33.9	48.8 35.7	44.5 30.9	53.8 39.1
女性からの相談体制の強化	28.0 32.4	28.6 41.9	34.0 30.5	32.3 37.1	28.2 24.7	20.6 33.1
男性からの相談体制の整備	16.4 23.0	25.4 45.2	21.3 32.2	19.7 25.7	10.9 16.0	11.3 17.2
DVに関する情報提供の強化	16.2 19.6	19.0 38.7	19.1 20.3	18.1 24.3	15.5 16.0	12.5 15.2
地域リーダー等の養成支援	7.6 12.8	7.9 16.1	7.4 3.4	5.5 5.7	4.5 12.3	11.3 19.2
国や地方自治体から 発信される情報の提供の強化	19.5 18.9	17.5 25.8	20.2 20.3	17.3 18.6	17.3 11.1	23.1 21.2
その他	4.5 5.4	4.8 0.0	7.4 6.8	5.5 7.1	1.8 7.4	3.8 4.0
無回答	5.8 5.4	6.3 0.0	5.3 6.8	6.3 2.9	6.4 4.9	5.0 7.3

8 男女平等参画施策について

8-1 男女平等参画社会づくり推進のために期待する施策

問25 男女平等参画社会づくりを進めるために、佐倉市にどのような施策を期待しますか。

(〇はいくつでも)

	[%]		
	全体	女性	男性
市の審議会や委員会など、市の政策方針決定の場へ女性登用の推進	25.3	24.0	27.0
各種団体などの女性リーダーの養成	16.9	15.2	19.4
幼児教育や学校教育において、男女平等意識の育成	38.7	40.1	37.0
男女平等に関する法律や制度について情報提供の充実	22.5	22.4	23.0
ボランティア活動・NPO活動の充実	14.8	14.8	14.5
仕事と家庭、地域活動、趣味・娯楽などの両立支援	35.1	36.3	33.9
女性の再就職・起業など自立支援のための教育・学習機会の充実	32.6	36.5	27.8
子育てをしやすい環境整備	62.5	65.3	59.2
高齢者・障害者の介護に関する情報提供	36.3	40.3	31.1
職場における、男女の均等な取扱についての周知徹底	19.8	19.1	20.9
自営業や家族従業者（農業を含む）へのワーク・ライフ・バランスの啓発	11.2	10.3	12.8
市職員の男女平等意識の推進	14.9	14.4	15.8
性教育・性に関する学習機会の充実	13.3	14.6	11.7
健康診断・生活習慣病予防など健康管理対策の充実	23.2	22.6	24.2
女性に対する暴力の防止対策の充実	15.3	15.0	16.1
男女平等参画の視点からの防災対策	8.1	7.6	8.9
女性からの相談体制の強化	19.8	18.4	21.9
男性からの相談体制の整備	14.4	13.0	16.3
男女平等参画推進センターの充実	10.3	8.8	12.2
その他	2.6	1.6	4.1
特になし	6.8	7.0	6.6
無回答	2.9	2.2	2.8

男女平等参画社会づくりを進めるために、佐倉市に期待する施策としては、「子育てをしやすい環境整備」が62.5%と、他の施策に比べて圧倒的に多くなっている。以下、「幼児教育や学校教育において、男女平等意識の育成」(38.7%)、「高齢者福祉や障害者福祉の充実」(36.3%)の順に多くなっている。

性別で見ると、女性では「高齢者・障害者の介護に関する情報提供」が40.3%、男性が31.1%となっている。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10-20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳 以上
市の審議会や委員会など、市の政策 方針決定の場へ女性登用の推進	24.0 27.0	14.3 29.0	20.2 27.1	20.5 24.3	24.5 22.2	32.5 30.5
各種団体などの女性リーダーの養成	15.2 19.4	9.5 22.6	17.0 13.6	15.0 15.7	13.6 19.8	17.5 22.5
幼児教育や学校教育において、 男女平等意識の育成	40.1 37.0	36.5 35.5	42.6 37.3	39.4 30.0	28.2 37.0	48.8 40.4
男女平等に関する法律や 制度について情報提供の充実	22.4 23.0	17.5 29.0	23.4 25.4	23.6 15.7	19.1 23.5	25.0 23.8
ボランティア活動・NPO活動の充実	14.8 14.5	12.7 16.1	13.8 8.5	12.6 10.0	9.1 14.8	21.9 18.5
仕事と家庭、地域活動、 趣味・娯楽などの両立支援	36.3 33.9	54.0 41.9	39.4 42.4	44.9 40.0	24.5 24.7	28.8 31.0
女性の再就職・起業など 自立支援のための教育・学習機会の充実	36.5 27.8	34.9 29.0	48.9 30.5	45.7 25.7	30.9 33.3	26.3 24.5
子育てをしやすい環境整備	65.3 59.2	77.8 64.5	75.5 66.1	66.1 54.3	52.7 63.0	62.5 55.6
高齢者・障害者の介護に関する情報提供	40.3 31.1	30.2 29.0	28.7 22.0	42.5 28.6	43.6 33.3	46.9 35.1
職場における、男女の均等な 取扱についての周知徹底	19.1 20.9	15.9 38.7	17.6 23.7	23.6 14.3	10.9 21.0	23.8 19.2
自営業や家族従業者（農業を含む）への ワーク・ライフ・バランスの啓発	10.3 12.8	9.5 22.6	9.6 13.6	10.2 11.4	10.0 12.3	11.3 11.3
市職員の男女平等意識の推進	14.4 15.8	14.3 25.8	11.7 13.6	15.0 11.4	10.0 13.6	18.8 17.9
性教育・性に関する学習機会の充実	14.6 11.7	20.6 25.8	23.4 16.9	13.4 14.3	10.9 8.6	10.6 7.3
健康診断・生活習慣病予防など 健康管理対策の充実	22.6 24.2	27.0 35.5	28.7 20.3	19.7 22.9	13.6 21.0	25.6 25.8
女性に対する暴力の防止対策の充実	15.0 16.1	17.5 25.8	17.0 16.9	16.5 15.7	11.8 18.5	13.8 12.6
男女平等参画の視点からの防災対策	7.6 8.9	7.9 19.4	12.8 6.8	8.7 5.7	0.9 11.1	8.1 7.9
女性からの相談体制の強化	18.4 21.9	17.5 35.5	24.5 23.7	23.6 24.3	15.5 14.3	13.1 21.2
男性からの相談体制の整備	13.0 16.3	15.9 35.5	18.1 22.0	15.7 14.3	10.0 16.0	8.8 11.3
男女平等参画推進センターの充実	8.8 12.2	4.8 16.1	10.6 8.5	10.2 5.7	3.6 9.9	11.9 17.2
その他	1.6 4.1	0.0 3.2	7.4 8.5	0.0 2.9	1.8 2.5	0.0 4.0
特になし	7.0 6.6	9.5 6.5	7.4 8.5	10.2 7.1	6.4 7.4	3.8 5.3
無回答	2.2 2.8	1.6 0.0	1.1 1.7	0.8 2.9	3.6 1.2	3.1 4.6

女性の場合、10-20歳代、30歳代で「子育てをしやすい環境整備」がそれぞれ77.8%、75.5%と、他の年代よりも多くなっている。一方、40歳代、50歳代、60歳以上で、「高齢者・障害者の介護に関する情報提供」が、それぞれ42.5%、43.6%、46.9%と他の年代よりも多くなっている。

男性の場合、10-20歳代が「職場における、男女の均等な取扱についての周知徹底」(38.7%)、「女性からの相談体制の強化」(35.5%)、「男性からの相談体制の整備」(35.5%)について、他の年代よりも多くなっている。

8-2 意思決定過程における女性の参画についての意識

問26 PTA会長や自治会長、議会や審議会・委員会等の政治分野や方針を決定する過程において、女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。(〇はいくつでも)

	[%]		
	全体	女性	男性
男性が担うのが社会慣行だから	40.9	37.2	46.7
女性は家事・育児が忙しいから	38.6	41.9	34.7
家族の支援・協力が得られないから	23.9	25.5	21.9
指導力のある女性が少ないから	25.2	24.7	26.3
女性側の積極性が足りないから	32.6	33.9	31.1
女性では、相手に軽く見られるから	26.9	33.9	17.6
その他	6.0	5.1	7.1
無回答	2.6	2.0	2.0

PTA会長や自治会長、議会や審議会、委員会等への女性の参画が少ない理由としては、「男性が担うのが社会慣行だから」が40.9%で最も多く、以下、「女性は家事・育児が忙しいから」(38.6%)、「女性側の積極性が足りない」(32.6%)の順で続いている。

性別で見ると、女性では「女性では、相手に軽く見られるから」が33.9%と、男性(17.6%)を上回っている。

[性・年代別]

女性の場合、40歳代で「家族の支援・協力が得られないから」が35.4%と、他の年代よりも多くなっている。また、60歳以上で「女性側の積極性が足りないから」が50.6%と、他の年代よりも多くなっている。

男性の場合、10-20歳代で「女性では、相手に軽く見られるから」が29.0%と、他の年代よりも多くなっている。

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10-20 歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳 以上
男性が担うのが社会慣行だから	37.2	47.6	43.6	34.6	36.4	31.9
	46.7	51.6	47.5	47.1	44.4	46.4
女性は家事・育児が忙しいから	41.9	42.9	47.9	44.1	38.2	38.8
	34.7	38.7	32.2	34.3	33.3	35.8
家族の支援・協力が得られないから	25.5	14.3	18.1	35.4	26.4	25.6
	21.9	16.1	22.0	25.7	18.5	23.2
指導力のある女性が少ないから	24.7	15.9	19.1	27.6	30.9	25.0
	26.3	12.9	27.1	24.3	34.6	25.2
女性側の積極性が足りないから	33.9	27.0	21.3	26.0	33.6	50.6
	31.1	16.1	22.0	30.0	32.1	37.7
女性では、相手に軽く見られるから	33.9	42.9	40.4	39.4	30.9	24.4
	17.6	29.0	20.3	20.0	12.3	15.9
その他	5.1	6.3	6.4	6.3	4.5	3.1
	7.1	3.2	6.8	11.4	8.6	5.3
無回答	2.0	1.6	0.0	1.6	2.7	3.1
	2.0	0.0	1.7	1.4	3.7	2.0

Ⅲ 自由記入

F6 男女平等参画社会についてのご意見・ご要望などございましたら、ご自由にお書きください。

市に対しての意見や要望を聞いたところ、女性 95 名、男性 74 名の回答がありました。

■男性
片親の支援をもっと充実させてほしい。年収ばかりで決めるのではなく、子供の数で決めてほしい。今は、習い事、スポーツするのもお金がかかるので、その辺を考えてほしいです。
男女平等参画も大切ですが、それ以上に若者の働き場所を確保することが最重要です。現在の日本は正社員の減少、それに伴い臨時、派遣、パートなど不安定な職業が増えています。大企業は目先の利益追及で海外に工場を作り、若者の働き場所が減っています。
良く男女平等参画と言葉は聞けるが、具体的な内容がわからない。情報が少ない。
男と女の身体的、精神的な特徴を考慮した男女平等を進めてほしい。男は男らしく、女は女らしく生活できるようにしてほしい。男も女も住みよい市にしてください。
まずは、議会、役所内の人事の女性登用から。市役所自体が男性重視ではないか？
完成度向上には、ハードルは高いと思いますので、実行するためのリスクに対する担保も十分確保。(民間と官公庁では、扱いが均一化は困難では。女性の雇用、育休の取得等) 広報で進捗をお願いします。
もっともっと広報や教育現場で知らせて欲しい。義務教育中の子供たちに、もっと知らせるべき。子供達の中にも差別がある・・・そう見えます。
市役所における女性管理職率 50% 目標とこれに向けての採用、教育の策定と実施・・・実施母体を平等に変えないと何事もうまく行かないと思います。
職場や地域社会において、男女平等参画社会の体制作り、女性登用の推進を欧米並みにしていくと良いと思います。
男女共同参画は重要だが、制度利用する側も、周囲へサポートがあつての事であると意識する必要。権利だと主張していくと、周囲も嫌な思いをする。
女性の社会参画、活躍は大歓迎です。ただ、活躍を期待する一方でそれを望まない女性も多く居るのも事実です。色々な選択ができる社会になればと思います。
男女社会の意識を変えていかなければならないが着実にすすめてほしい
近年は平等になっていると思う。これからもこのまま社会が男女平等を進めていってほしい。
考え方は男女平等ですが、それぞれの得意分野があるので、役割分担は不平等ではないと思います。例えば、子育てでは女性向きの分野ですので、その期間は仕事から離れて、子育てに専念してもよいと思います。必ずしも同じ様に仕事をする事が男女平等ではないと思います。
制度はあっても現実には利用できない。利用できる空気ではない。社会の認識を変えるか、罰則を作らないかぎり、いくらよい制度があっても意味がないと思う。
待機児童の問題を早急に解消し、若い女性(母)の社会進出を促進させる体制を構築して欲しい。
自分はこのアンケートを答えるまで、男女平等参画について深く考えてこなかったが、これを機に、自分が住む街での男女平等の実態について興味を持った。恐らく自分と同じことを思った人も数多くいるだろう。その人達のためにも、ホームページなどで今の状態を載せるなどして頂けると良いと思う。

女性には、妊娠・出産という仕事上のハンデがあると思うので、経済的な補助や復職の確約等、安心できる社会が必要だと思います。又、保育園等の充実も必要です。
佐倉市在住だと仕事が東京圏で通勤時間に時間を要するので、近隣に雇用増となる様な（例えば企業誘致等）施策が、子育て、地域活動の時間を生み出せると思います。
女性の方が能力を発揮できる部署などたくさんあると思います。性別でなく人間平等です。子ども達を大切にしてください。
高齢者の介護に関する情報提供の充実。健康診断・生活習慣病予防など健康管理対策の充実
法律や条例などで強制力のある仕組み作りが必要。そうでなければ（カケ声で留まる）
社会で管理職・リーダーに女性が少ないので積極的に登用するという考えはおかしい。能力がある人間が上に立つべきであって男女だからで分ける必要はない。女性だから管理職に登用して会社は成り立つのか。「女性だから・・・」という考え方自体男女平等の考えとは逆ではないのか。
現状、平等とは言えない今の世の中で、具体的な国の政策に期待したい
町内会では社会福祉協議会と結びついています、これと同様にしたらよいのでは
男女平等参画についてもっと広報で知らせてほしい
能力がある人が参画すればいいことで、平等にこだわる必要を感じません
あまり平等ばかり主張しても男女では体力や考え方など元から違うところがあるので男にしかできない事、男の方がやり易い事、逆に女にしかできない事、女の方がやり易い事というものははっきりと位置付けてもいいと思う。
男女平等にしっかりすべき。政治にしても平等ではない。活動してわかった。不倫ばかり、そこを直すべき。
何が必要かの入口論を市民目線で考えてほしい
男女平等と言いながら女性の権利について強化しようとしているように感じるのですが。また質問内容として独身者（結婚していない）には答え難いものがあります。
元来、男性と女性には役割期待があり、すべてを男女平等にはできない。家庭に入り子育てをしたいと思う女性も多くいる中、経済面からそれができず、幼い子供が犠牲になっているケースが多いのではないかと。母親が（父親でもよいが）伸び伸びたくさんの子供の子育てをできる様にするのが根本的に大事だと思われる。
これから若い方のために広報等で知らせていただけたら有難いものです。マンガ等で分かりやすくした方が伝わりやすいかもしれません。現在の教育の現場はわかりかねますが、性差を意識する小学校高学年あたりからの年令で教え始めるのが良いのではないかと思います。
男女平等は全女性の総意であるか疑問。古い思考でのベースであるがほんとうに男女平等を全女性のうち何%が望んでいるのか知りたい。日本が諸外国と全ての面で同等と見直すべき必要があるのか。社会では男が少し上で家庭では女が少し上が理想ではないか。
意味のない数値目標を作るのはやめた方がいいと思う
男女平等を言うときに、女性を男性と同等にする、女性が主となっている、例えば家事・育児を男性でもできるようにするといった内容が多いような気がする。本当の意味の男女平等参画社会とは、誰がどのように考えているものなのだろうか。
処遇の平等を担保するのではなく可能性を担保すべき。
男女平等と言う考えを、それぞれの特質（美德）を失う方向で捉えてはいけない。

<p>職場、家庭での平等化を一に考えるべき。会社で対応してくれないのであれば行政がもっと職場の環境を探り改善して行く事を望みます。また、保育所が少ない事から、女性が社会へ進出出来ないのも大きな一つの課題とも言えます。市への今後を期待しております。</p>
<p>男性側の意識改革が必要かと思えます。</p>
<p>男女平等参画社会はとてもよいと思う。しかし、地域の文化・伝統も大切にしてほしい。</p>
<p>ひとつひとつの事柄で男女平等参画に男女差別があるのではないかと考えなのは・・・。例えばある事柄で Aさんは男性、Bさんは女性に負担、又は傾向があると意見が別れるでしょう。私達一人ひとりが男女平等参画社会の中で生活していく時トータル的に判断すべきではないでしょうか？</p>
<p>個人情報保護法など、必要かもしれないけど法律が一人あるきだけすると何か生きづらい社会になりました。みんな自分の携帯電話と会話だけして生きています。もっと不便で額に汗して生きていた社会にした方が良くない。私と妻もまだケイタイ持っていません。いつも会話することに生きる喜びを感じています。社会はPCのおかげで進化したけど、個人能力は会話面を含めあきらかに退化したヨ。</p>
<p>女性の再就職支援、子育てをしやすい環境作りをする事が大切と思えます。女性の経済力向上は女性の参画社会の重要なファクターとなると思えます。</p>
<p>男女平等の定義を明確に示すべき。何が平等なのか、何が不平等なのか、話している（書いている）人は正確に理解しているのだろうか？</p>
<p>レイクピアうすいはよく利用するが、男女平等参画推進センターはいつも閑散としていてとても役に立っているとは思われない。市はPRやもっと活用してもらうための知恵を絞るべき。</p>
<p>男女には生物学的差異があることは事実。間違った‘平等‘は逆に差別になることも。真の平等は多様性を認めることと思う。</p>
<p>男女平等参画についてもっと広報で知らせてほしい。その通りです。</p>
<p>男女平等参画の社会は大いに推進すべきと考えますが、アンケートを記入している中で気になった点を挙げます。①登用等に関する事…大前提として能力が備わっていることが求められ男女比率の強制的補正があってはならない事。②性差に関する事・・・おのずとできる事、できないことが発生するので相互の尊重しあえる施策を望む。</p>
<p>女性側から提起される問題ではありますが、やはり女性側の積極性が不足している面もあります。よって行政は推進センター等への女性の積極参加を促した方が良くないと思えます。</p>
<p>企業が変わらなければ難しい（企業への働きかけ希望）</p>
<p>全ての機会は平等に与えられ、公平に決定されるということが見える社会になれば良いと思えます。昔からの考え方、習慣は見えない所、部分で決められているように思えます。</p>
<p>女性の社会進出を重視するのではなく、なぜそうせざるをえなくなったのか原因を究明し、それを理解してほしい。</p>
<p>啓発活動に力を入れる</p>
<p>男女平等社会にすでに入っているのでは？逆に男弱、女強（仕事面においても）また70歳を過ぎても働く意欲のある人たち（男性）も多いのにその場が限られている。男女平等参画の詳しい情報を広報で知らせてほしい。（最近はあまり弱いとは思わないし、このアンケートはなぜか男性が悪い様なイメージで非常に不快な気持ちになりました！</p>

<p>男女平等参画社会の制度的な推進は進んできていると思うが、社会全体での（特に上の年齢層）意識がまだまだであると感じられる。したがってこれからの社会をつくる子供たちへの啓発が社会の意識を変えるためには、非常に重要だと思う。</p>
<p>スマートフォン等で誰でもネット上の「赤裸々な」情報が容易に入手できる時代となり、過激な意見、思想が蔓延してしまう傾向があると思います。行政には、男性、女性双方の意見を汲み取り、なぜ男女が社会に公平に参画していくことが大事なのか、改めて発信していくことが重要だと考えます。</p>
<p>「平等」というのは、男と女に全て同じ役割を課すものではなく、男だからこそできること、女だからこそできること、それぞれに価値を見出すことだと思います。だからこそ、天はこの地球上に、男性、女性、二つの性を授けて下さったのでしょう。お互い尊重し合うことが原則です。</p>
<p>会社や企業が子育てにもっと理解をし、労働時間の見直しや、転勤の考えを見直すべきである。</p>
<p>自分も含め男性退職後の生活に不安があるかと思います。現役時代から、会社以外の社会と共有する場所、関係他、反省することがたくさんあります。この度のアンケート調査に選んでもらい、ありがとうございました。</p>
<p>育児、介護、DV等男女平等参画を促す最速の方法は、まず強力で企業から反対をくらうくらいの法整備、作成が必須。罰則規定が甘々になっている。法整備の礎となる団体になって下さい。制度は法に自然に従うのが日本です。</p>
<p>あまり考えずに過ごしてきましたがもっと出来ることは何なのかを考えながら生きたいと思いません。</p>
<p>仕事のための仕事は不要。公務員の削減と公務員の給料カット。</p>
<p>この調査を参考にし、どのような対策を立案し、それをどのように実践したか？その結果、今後どのように改善していくのか？という行動計画を示してほしい。</p>
<p>佐倉市がこの様に取り組んでいる事を知らなかった。勉強になりました。</p>
<p>もっと具体的に＝何がしたいか良く判らない</p>
<p>このような紙でのアンケートをするより、市議会市職員が足で皆の意見を聞き、その担当の人が責任をもった意見を出し、積極的な地域づくりをやっていってほしいです。国民、県民はそこから直してほしいと思っています。</p>
<p>この企画に対する市民の認識が余りに低すぎるのが問題です</p>
<p>もう少し要領よく質問すること。何でも聞けばいいものではないぞ。もう少し頭を使っていたらきたいものだ。質問方法を改善すること。充分注意すること。</p>
<p>この意識調査は「男は仕事、女は家庭」という考え方の上に作成されており、男女平等という概念で作られておらず大変不快である。現在の日本社会が「男は仕事、女は家庭」という状況にあるにしても、この質問内容では正しい調査結果は得られないと思う。</p>
<p>アンケートは女性の事が多く、男性の項目が少ない→平等についてのアンケートなの？</p>
<p>およそ15分程かかるアンケート。本当に有効回答が得たいのであれば無償では大きな成果は得られないと思う。せめて、佐倉市内で使えるクーポン券くらいないと多くの人が面倒くさくて捨てていると思う。3000人だけにやると不平等とかお考えかもしれませんが・・・。</p>
<p>このアンケートは家事から子育て、地域活動、介護からDV、性的犯罪まで幅広く、「男女平等参画とは何なのか」がわからなくなってきた。</p>
<p>本調査の結果のレビューと佐倉市の今後の取り組み案をフィードバックして欲しい。</p>

■女性

男は男の出来る仕事を女は女の出来る仕事をりっぱにやりその中でお互い協力出来ることがあればやれば良いと思う。社会の中は豊かさがいっぱい！物欲に目が心がいくことなく自分たちの出来ることをやる中で幸福が見えてくると思います。

最近よく「男女平等」と聞くようになり、女性も色々活躍出来る世の中になりました。すごく良いことだと思いますが、男女は平等ですが「平質」(同質)ではないと思います。私の高校時の先生にそれを良く言っていた方がいました。あの頃はよく理解できませんでしたが今はよくわかります。すべて同じにしなければ…という今の流れに少し違和感を感じます。男の人にはしか出来ない事、女の人にはしか出来ない事、それぞれの役割がある事、その事を基本として忘れずにその上で平等になるよう市(国なども)動いてほしいなと思います。子供を産むこと、赤ちゃんへの授乳やお世話女の人だからこそ出来る事それを大事にすることが少子化を良くしていく方法だと思います。仕事をする女性ばかりを取り上げ、仕事をしている女性は素晴らしい！との動きが過熱しすぎると、子供が欲しい、子供を育てたいという気持ちが薄くなっていってしまう気がします。子供を産めるのはどんなに平等！平等！と言っても女性だけです。最近、女性は出産すると諦めなきゃいけないことが多いとマイナスのことばかり聞きますが、本当にマイナスなのかな…と思います。

他の保育園はどうかわかりませんが、利用させてもらっている保育園はお迎えの予定時刻を守らないといけません。(←もちろん遅れる場合や早まる場合は連絡を入れています)しかし、本当にやむを得ない場合以外の延長以外は職員のシフトに関わるらしく前日までに伝えなければならぬため、急な残業などができません。そうすると女性は自由に働くことができない上に、途中で仕事を切り上げなければならず、もどかしい思いをします。佐倉市として子育て支援についてどう思うのかを知りたいです。今まで病児保育がなく他市を利用していたことや病後の予約も取りづらく、柔軟に対応してくれなくて困ったこともありました。もっと女性が家庭と仕事を両立しやすい環境を作って頂けると幸いです。病児保育ができたことはとても心強く思っています。

男女の人権は平等であるが、それぞれの個性があり、役割分担を上手に出来たらと思う。

ミウズの存在をもっと知らせて広めてほしい。名前だけでは何をしている所なのかわかりにくい。

頭では「男女平等」ということを理解していても、現実的に行動に変えていくことはとても大変であろう。男、女どちらが上ということはなく、それぞれが意思をもって生活できる社会であるべきだと考える。「こうあるべき」ではなく、個々人がその家庭にあった生き方が実現できることが理想であると私は考える。

新聞も取らず、市報の配送を依頼しない、ホームページも見ないような市民にも知って欲しい。市報や広報を読む方はある程度積極的な方だと考える。無関心な方への啓蒙が必要ではないか。佐倉市にいながら、市長の名前さえも分かっていない方を多数知っている。一部上場企業の正社員でもこのような方がいるのだ。住んでいる根郷地区は情報収集を自らしないと入ってこない。選挙の時も地味にポスターが掲示してあるだけだ。選挙カーも見かけない。

共働きが増えた中で、社会の支援が追いついていない。第一に子供を産みやすく、育てやすい、環境ができれば、自然と男女平等参画社会の流れができてくるのでは？

災害時のジェンダーの学習会(堂本暁子さんを招き、市民の意識向上を図る)

もう充分男女平等実現されてる気がしていたが、いわれてみれば女性管理職や社長さん、政治家は少ない。もっと声高に知らしめてほしい。ミウズの企画も楽しいもの(ネコクリップの作り方とか)も時にはまじえて下さい。講演もいいけど、それも行きたかった。(4回全部は行けなかったのであきらめた)

頑張ってください。国や市に期待出来ないと思いつつ自分からは動いていません。何とかならないものか・・・。

このアンケートも含め、市民の声を聞いてよりよくなればいいなあと思います。
講習などを行う際、託児（できれば無料で）をつけてほしい。（又は、子連れ可能な状態にするか・・・、駐車場もあるとありがたいです）
男女平等参画というのが具体的に何を行っているのか、全く知らなかったし今回のことをふまえてもよく伝わってこなかった。もう少しわかりやすく広めていてもらいたいです。
男女平等参画社会があるとは知っていましたが、実際にどうしているのか知りません。情報も入ってきません。昔からみれば女性は自由になりました。私たちの年代は「清く正しく美しく」が掲げられた時代です。これが今の時代には失われてしまいました。また、道徳（倫理）もなく乱れたままの時代で昔が良かったと思う時があります。回答になっているかどうか分かりませんが、これで失礼します。以上です。
今でも男性と女性の間では仕事でも家事でも差別されているところがあると思う。情報提供をもっと活発化させれば住民の男女平等参画に対しての意識が高まると思う。
男女共に差別なく仕事・子育て・介護等、社会参加できる世の中をねがっています。専業主婦（夫）も1つの立派な役割であり、各家庭の事情・スタイルにあった形を選択出来るようにしてほしいと思います。
男女平等参画について、もっと公報で知らせてほしい。
お仕事お疲れ様です。一市民として、特に問題なく暮らせています。ありがとうございます。
上記の通りだと思いました。
男性も女性もそうだと思いますが、そんなに参加したくないのに「参加しなさい」と無理矢理言われるのはどうかと思います。
佐倉市も高齢者が増え介護への負担、男女問わず地域全体で助けられると取り組み方、情報提供の充実、子育て世代への講座など必要と感じます。今後も「広報さくら」の内容充実をお願い致します。
男女共各自がそれぞれ手助けを心掛け支える
今回のアンケートほとんど当てはまることなくわけわからない。回答にすごく困った。もっと他の人に答えてもらった方がいいのではないかと思います。今回男女平等の件となっていましたけど正直男女平等ではないと思います。人種差別ひどいと思います。無職で収入もないのに将来もらえるかわからない年金支払ったり、正直もってお金ないです。働きたくても人を見た目で判断して働かせてくれない。働ける場所がない！どうしたらいいのですか？パートナーがいればまだしも、ぱーとなーもないし。この先の生活が不安です。男女平等というのであればもっと色々力を入れてほしいです。少しでも働ける場所を増やしてほしいです。収入があれば税金を支払えるのにわずかな貯金を崩して払ってそのうち無一文になってしまいそうです。もっと働き口にも力を入れてほしいです。親も高齢なので親にも頼れません！みんなが安心して働ける町づくりをしてほしいです。
同期入社をして男性は昇進、賃金は上がるのに女性は一般のまま恵まれない。なぜだろう。これでは一人親（女性）が子供を育てられない。
なかなか難しい内容でした。情報が入りづらい部分も多く、知りえないことが多すぎる様に思います。関心はあっても参加しづらい事も多々あります。
会社で働くことだけが男女平等ではなく、家で子供をみて育てることも大切だと思う。妊娠・出産は女性にしかできない事なので妊娠から子供が小学校にあがるまでは女性が家で子供をみれる環境、支援手当てがあればよいと思う。

<p>男女平等参画社会と言ってもすでに今の生活でいっぱい。不満はあってもこのままなのだろうと思う。それは仕方のないことなのだと思う。勤めていると、土日も有効に使えない。</p>
<p>子育てできる環境を第一にすると、男性、女性問わず働き方を社会全体が変えていくようにしなければならぬと思います。</p>
<p>女性管理職を増やす為にはやはり育児中の研修と復帰後の職位の継続と子育て中の支援となる休みの取り方の自由さと病児、病後児保育施設の充実が必要だと思います。</p>
<p>女性が働きやすい職場作りと出産、育児後の職場復帰しやすい環境作りをしてほしい</p>
<p>どうしているのか知りたい</p>
<p>参画という意味が具体的にどういうことなのか良くわからないので、意識しづらいところがあります。‘男女平等な世の中をめざして‘とか何かわかりやすいネーミングがかんがえられないかなと思います。</p>
<p>人間教育の徹底！カウンセラーさんと相談者さん、お互いの人間教育と心のケアをして下さい！あらゆる差別・偏見、イジメなどすべての悪いことに反対の意識を強く持とう！よろしく願いします。困っている人をちゃんと助けて！お願い！ちゃんと話を聞いて、理解して！</p>
<p>行政が具体的にどのような活動をしているかまったくわからない。レイクピア臼井の3Fに設置がある事も初めて知った。いくら法制度したところで実際に各企業が積極的に取り組むとは思えない。</p>
<p>ミウズのことについてもっとお知らせが欲しいです</p>
<p>年配の方は男女平等の意識がうすい。もっと教育して欲しい。若者より老人の方が平等にみてくれない。</p>
<p>女性自身が男性は仕事。家事、育児等は女性と決めつけているように思います。また、男性自身もそのように思っていると思います。日本人の国民性かなとおもいます。</p>
<p>男女きっちり平等にする必要はない。そもそも男性が向いている仕事、役割、女性に向いている仕事、役割は違うのだからしょうがないと思う。男女平等といきり立っているのは女性ばかりでは？男性が同じ様な事を言うと非難される。</p>
<p>私は日頃から”もっと男性は女性を大切にすべきだ”と思っています。女性が命をかけて出産していること、SEXについて男女の体の違いなどしっかり小中高生に教育すべき。(特にスマホを持つ子供が増え、誰でも簡単にAVなどが見れるので)性教育は親からなかなか伝えにくく、子供側も親からよりも学校で教えてもらう方が良いと考えていると思う。それが望まない妊娠を防いだり、男性側の避妊に対するあたりまえであるという考えにつながると思う。</p>
<p>DVの相談を何度もさせて頂きました。無料で相談が出来、心の支えとなり新たなスタートを始めるための背中を押してくれた先生に感謝申し上げます。これからも女性の強い味方であって下さい。</p>
<p>家事、育児、仕事で、過労で倒れたことがあるが、結局経済面のことを考え仕事は続けてますが…幼稚園が2名で自分のパートのお金は全て消える。子どもが一番かわいいと思う時期からずっと働き、子供にさみしい思いをさせているのではと悲しい思いがある。仕事でも有給申請したいが現状できず(暗黙のルー的な)行事などで休み事が多い時は給料は高校生のバイトぐらいもないのが現実です。保育園(幼稚園)の延長など使用して長く働いても結局その分お金がかかる為解決しないと思う。家族の時間を大切にしたいが全てにゆとりがないとムリ！！</p>

<p>男女の格差があるのは仕方ない。個々人で身体の作りに違いがあるのも仕方ない。それから起きる行動、感情をまず認識し、対応の仕方を工夫していく。これを「人としてお互いを尊重する」という基点をもって育てていくことで不満は少なくなっていくのでは。小学校、中学校で知識の詰込みのみでなく、病気や性差など「人」をもっと感じる授業をしてほしい。</p>
<p>あまり深く考えた事なかった事なのでいい機会になりました。推進センターがあるのも知りませんでした。人ごとな言い方になってしまいますが頑張ってください</p>
<p>名前は知っていたが何をやる所なのか良くわからなかった</p>
<p>市内においても地区によって男女平等による考え方、また施策等だいぶ違っているのが現在の佐倉市ではないでしょうか。それぞれの地区に合った男女平等参画社会になるよう心より期待しております。</p>
<p>日本は家庭が閉じられた空間で、自分が育った家庭しか知らず、それが当然だというスタンダードになる。なので家庭ごとに意識が全く違うと思う。どれだけ啓発を行っても実感が伴わなければ意識に根付かない。保・幼・小・中・高での講演だけではない活動や実践を伴った教育、市の取り組みを要望します。</p>
<p>個人差はあるものの男性と女性では向き不向きがあり同じようにという訳にはいかないと思います。</p>
<p>子供の頃からの意識改革が必要。男女ともに仕事を持ち働くという考えと女性が働くという事は出産、育児の負担はある程度はある中でどのように働いていくか考える事が大切。もちろん男性の協力理解が一番ですが・・・。</p>
<p>私は今夫と二人暮らしですが、夫は無職で何もしてません。まだ働ける年です（62才）。私が毎日働きに行っています。今家の事は何もしてくれません。たまに洗濯物を取り込むだけです。もう少し仕事してほしいです。体も（病気もしてないし）と思います。私は病気（がん）で病院に行きながら働いています。</p>
<p>働く女性が増えたことで育児、介護にまで手が回らない家庭が多いのではないかと感じます。保育内容の充実も必要だとは思いますが、男も女も家庭にいられる時間が増えるよう働き方（残業、休暇の取得、周囲の理解など）の改善もしていかなければならないような気がします。</p>
<p>ほとんどの人が男女共同参画社会推進センターのことを知らないと思います。</p>
<p>法律があまりに女性の方が優位すぎると思う。色々話を聞いていると男性もかわいそうと思う。離婚に関しても女性が悪くても、なぜ、そこまで思う事が多すぎます。</p>
<p>男女同権、しかし同質ではない。（by 細木数子）男女平等という用語弊がある様に思います。女性は身体的に男性より弱いですし、男性は職場（仕事）以外では、むしろ待遇が悪い様に感じます。平等ではありません。やはり男性には仕事、女性には家庭、そういった社会を希望します。（介護は除く）</p>
<p>（フルタイムの）共働きの家庭では、どうしても女性の負担が大きくなります。そこでパートになってしまうと、子育てが一段落する頃には、正社員への道はとざされ（年令的な問題等で）このような不平等が、とても問題だと思います。企業は、もっと努力すべきだと思います。（時短勤務延長や看護休暇の充実、再雇用時の年齢制限等のはいじょ、フレックス制や在宅ワークの充実等）</p>
<p>女性が子供を産む以上社会においてなかなか男女平等にはなれないと思いますが、社会全体が意識改革を行っていけばいつかは男女平等の時代が来るのでしょうか。この問題は昔からずっと変わっていないかと思っていますが、今は退職した一人として最近の社会の中のことがわかりません。</p>

<p>情報提供の強化と相談しやすい（状況）環境。情報はわかりやすいほうが良い。</p>
<p>男性も女性も仕事をして、家事、育児も分担して平等に行う＝男女平等だとは思わない。性差に合わせた役割分担があり、お互いが、一人一人が個性を認められて、大切にされて、輝いていられる社会が望ましいと考えている。男女平等という言葉には違和感を感じる。</p>
<p>お年寄りや子ども達の施設を充実させることで若い世代の社会進出が活発になると思うので、そういった施設の職員の労働環境の見直しは大変大切なものだと思う。</p>
<p>私はすでに育児も終わってしまいました。子供達が小さい頃はほとんど何の補助もなく、公立校の援助もなく今は恵まれていると思います。けれど、これから自分の子供達が親になって生活を豊かに平等の教育を受けられるようにこれから始まる介護に希望を持ちたいです。</p>
<p>わたしの20代。30代の頃とはいろんな意味で違う社会構造になってる気がします。多くの世代に情報をお知らせ頂いたらと思います。発展を願っています。</p>
<p>女性が頑張ってもっと活躍でき認められる社会にしてほしい。</p>
<p>日本の社会は男女不平等であり古い考えの人が多くと思う。今の若い世代はもうその様な考え（男が優位）が少ないと思うが、年寄りには女に学問不要などというおかしな考えが残っている。特に農村地区。どんどん若い人達の意見を年寄り達も聞き入れてもらいたい。</p>
<p>PTAの参加が難しい人が多い中での各学校PTA本部の方針でなのか参加する必要がない企画も多い。不参加にしてはいるが、子供から「〇〇ちゃんのママは来ていたヨ」とか言われると仕事をしているのにそのため（PTA）の時間を母が作らねばならないという状況に納得がいかない。けれども父が参加する企画は少ないので結局母が・・・という状況になる。不必要なものではなくすというのも男女平等の一つになるのではないのでしょうか？「母」の負担が普通に多いです。</p>
<p>男女では体格、性能、思考などちがうので全くの平等はムリであるがそれぞれの能力が活かされるような講座や、不足へのサポートを充実させてほしい。個性、能力を發揮できるようにすることも大事だが介護や育児を他人任せにせず必死にやってる人たち（家族も）社会（に戻りやすい環境づくりを）で認められる存在であってほしい。</p>
<p>私は「女性は結婚・出産後も働き続けた方が良い」とは思いません。子育てに専念したい女性もいて良いと思います。子供の成長とともに。空いた時間が出来たときに働きやすい職場があると良いです。例えば、1日2時間の勤務が良い、週に1、2回でも良い、看病の時に休みをもらいやすい等です。働きたくても働けない女性が多い様に感じています。フルタイムを望む女性には、また別のサポート（社会、家族間）が必要だと思います。男性への育児参加は、講座の充実化を図っても受ける時間がなければあまり意味がないように思います。まずは男性が育児参加できる時間の確保（育休、勤務時間短縮）が必要だと考えます。貴重な休日を家族サービスで頑張るお父さんをよく見かけます。父親へのサポートやフォローも必要だと思います。それは子どもの成長にとっても良いものだと思います。</p>
<p>平等であるとも不平等であるとも思いませんが女性が不平等だと言われているのは納得できません。家庭における不平等は家庭内での話し合い不足。社会における不平等は感じた時点で自分側を変えれば良い。（転職など）</p>
<p>大人になってからの意識改革は難しい。小さい頃から、男女は平等であり、お互いに助け合って生きていくという考え方を身に着ける必要がある。（学校だけに教育を任せるのではなく、市による出張講座等を行ってほしい。）</p>
<p>男性の育休制度利用に対する社会的認知度、理解度の向上や、子どもに対する正しい性教育をしっかりと行うことも大人の責任だと思う。</p>
<p>「男女」にこだわらず人間として皆の個性がイキイキと發揮できる世の中であってほしい。</p>

性別が異なれば体格も育った環境も違うものが生きていくのだから真の男女平等は無いと思っている。けれど”どうすれば相手が喜んでくれるか”ということを実践していけば生きやすい社会になっていくと思う。
”男女平等”と文字で記したり言葉で発することは簡単ですが、現状はまだまだ男尊女卑な場面が多いと思います。今後、男女平等へ近づけるよう、実績を上げる取り組みを期待しています。
そもそも男女平等にする必要がないと思います。基本むかしのように男は働く！女は家を守る！という形がくずれてきているからいろいろな事件問題がおきているのではないかと・・・。
「主婦」のキャリアを生かす場が提供されると良いと思う。(例えば、アイデア商品、特産物で名物料理を提案など商品化や企業を実現させる支援に力を入れる。)
講座や研修等より、実際に女性に仕事を紹介する等現実的に目を向けるべき。話を聞いても生活していけない。
高齢者になればなるほど、男性の女性軽視が強い。若い人よりも高齢者への対応が必要。
子どもが小さいうちは夫も短時間の勤務 etc できるような制度、職場があると良いと思う。子供が具合が悪いときに休みを取るのは母親という考えが当たり前になっている。職場の人、みな男性(父親)も子育てするという意識を持ってくればと思います。子育ての時期は男性は重要なポストについてしまい、帰りが遅くなり・・・日本の社会が変わってほしいと願います。
育児について、子供が3歳までは、親が仕事を中断し、育児に専念できる環境が整ってほしい。愛情いっぱい育ててほしい。
国全体で、ひとり一人の意識を高めるような活動をしてほしい。学校教育等で。
男尊女卑の思想は様々な差別や不公平を生んでいて、根強い。学校教育はもちろん、成人に対する(男・女ともに)啓蒙活動に力を入れてほしい。市の職員の意識改革も必ずやってほしい。
子育て支援も大事ですが、年寄りの年金生活苦も大事だと思います。女性の方が一般的に安く生活苦に成りやすいのではないのでしょうか。
あまりお役に立つ意見ができませんでした。すいません。
○広報はみんな読むと思うので、広報で知らせるのは効果的だと思う。○小、中学校で子供のうちから価値観として平等なのが当たり前として考えられるように教育してほしい。
以前就労していた際、男女間で昇給、賃金において格差が顕著でした。(3年程前)大企業といわれている会社内においてです。企業経営者、又は、管理職、人事担当者の方々の意見(本音)を聞いてみたいです。
そもそも、男と女は違うので男女平等参画社会には反対です。一部の女性議員が女性の社会参加を推し進めた結果、能力の低い女性も働くことを強制させられる社会になっている面もあります。男性の仕事を奪ってしまい、しわよせが来ている家庭もあります。働きたい女性は働ける社会に、家庭を守りたい女性は家庭に入れる社会を望みます。女性は男性のように安定して働けません。平等というのは無理があると思います。働きたい女性のサポートばかりで、働かざるをえない今の女性の状況が問題だと思いませんか？男性に男性らしさがなくなったら誰が家庭を守り支えるのでしょうか。男と女の役割を一緒くたにしてしまう教育にも大反対です。古くから続いてきた男は男らしく、女は女らしくそして男らしい女、女らしい男も認める社会を望みます。
両親の時代に比べると男女差別を感じることはほとんどなくなりましたが、皆で楽しめるイベントなどがあればと思います。

女性の社会進出はとても良いことだと思うが、子供が小さいころに限っては、子ども中心で生活することの方が大切だと思う。長時間、家庭に母親が不在で淋しい思いをしている結果、子ども自身の周囲の人に迷惑をかけたり、友達に優しくできなかったりする子が多くいると思う。バランスをうまくとれるよう、社会で活躍できるのがベストかと思う。

介護の負担が大変な家族が増えていくと思います。サポートを充実させてほしいです。女性に重いばかりではなく。

企画は立派ですが、内容と人材かと思われます。まず、地域において、暮しやすい社会を作る為に何をするか。難しい問題ですが・・・。

このアンケートの意義がわかりません。

本アンケート結果を分析の上、公表してください。(回答者の属性によって違う結果になると思いますので)

☆質問事項がまとを得てないので解答しづらかった (どの項目もあてはまる様な)

IV 調查票

～～ あなたのお声をお聞かせください ～～

佐倉市男女平等参画社会に関する 市民意識調査へのご協力のお願い

佐倉市では、誰もが個人として尊重され、自らの個性と能力を十分に発揮することのできる「男女平等参画社会」を目指しています。平成21年には、男女平等参画基本計画[第3期]を策定し、市民のみなさま方のご協力のもと、この計画の着実な推進を目指して取り組んでまいりました。

少子高齢化や共働き世帯の増加など、社会経済情勢の変化が急速に進む中で、一人ひとりが自らの意思によって個性と能力を十分に発揮できることが、一層重要となっております。男女平等参画社会づくりに関する市民のみなさまの意識を把握し、次期の男女平等参画基本計画を策定する基礎資料とするため、アンケート調査を実施することといたしました。

市内にお住まいの満18歳以上70歳未満（平成29年8月31日現在）の3,000名の方を無作為に選びましたところ、あなたをこの調査の対象とさせていただきます。施策推進のため、是非お声をお聞かせください。

なお、この調査は無記名で行い、結果はすべて統計的に処理し、ご回答いただいた内容は調査目的以外には使用しませんので、個人のお名前が出るなど、ご迷惑をおかけすることは一切ございません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、本調査の主旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成29年9月

佐倉市長 藤 和 雄

■ご記入にあたってのお願い■

1. 調査票は、あて名の方ご自身が回答・記入してください。
2. 回答は、あてはまる項目の番号や記入欄に直接○をつけるか、内容を記入してください。
なお、「その他」に回答された場合は、ご面倒でも（ ）内にその具体的な内容を記入してください。
3. すべての記入が終わりましたら、お手数ですが記入まちがいや記入もれがないかお確かめの上、別冊の調査票のみを同封の返信用封筒(切手不要)で10月2日(月)までにご投函ください。

住所・氏名の記入の必要はありません。

4. この調査についてのお問い合わせは、次の連絡先までお願いいたします。

佐倉市 市民部 自治人権推進課 人権・男女平等参画推進班

住所 〒285-8501 佐倉市海隣寺町97番地

TEL 484-1948 (直通) FAX 484-1677

E-mail : jichijinken@city.sakura.lg.jp



男女平等参画社会に関する市民意識調査 調査票

【男女平等意識について】

問1 あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。(〇は1つ)

1. 同感する	2. どちらともいえない	3. 同感しない	4. わからない
---------	--------------	----------	----------

問2 あなたは、次の(ア)～(ケ)について、男女の地位は平等になっていると思いますか。
それぞれの項目ごとに、あてはまるものを選んでください。

(〇は項目ごとに1つずつ)

	1 優遇 男性 の方が 非常に されている	2 どちら かとい えれば 男性が 優遇さ れている	3 平等 である	4 どちら かとい えれば 女性が 優遇さ れている	5 優遇 女性 の方が 非常に されている	6 わか らない
回 答 例	1	2	③	4	5	6
(ア) 家庭生活の中で	1	2	3	4	5	6
(イ) 地域社会の中で	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の中で	1	2	3	4	5	6
(エ) 職場の中で	1	2	3	4	5	6
(オ) 法律や制度の中で	1	2	3	4	5	6
(カ) 政治の中で	1	2	3	4	5	6
(キ) 社会通念・習慣・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
(ク) 人生を決める選択枝や自由さ	1	2	3	4	5	6
(ケ) 社会全体でみた場合	1	2	3	4	5	6

【家庭生活について】

問3 あなたは現在、結婚されていますか。また、結婚されている場合は共働きですか。次の中からあてはまるものを選んでください。(○は1つ)

※「結婚」は、事実婚(戸籍上の婚姻とは限らない)も含みます。「共働き」は、パート・アルバイトなども含みます。

- | | |
|--------------------|------------|
| 1. 結婚していて、共働き | 4. 結婚していない |
| 2. 結婚しているが、共働きでない | 5. その他 |
| 3. 結婚していたが、離別・死別した | () |

問3で3、4、5を選んだ方は、問6にお進みください。

問4 あなたの家庭(事実婚で同居している場合を含む)では、次の(ア)～(ソ)の事柄を主に誰が担っていますか。それぞれの項目ごとに、あてはまるものを選んでください。

(○は項目ごとに1つずつ)

	1 夫	2 妻	3 夫婦ともに 同じくらい	4 その他の家族 (子どもや親など)	5 その他(※)	6 該当なし
回答例	1	②	3	4	5	6
(ア) 食事の支度	1	2	3	4	5	/
(イ) 食事の後片付け・食器洗い	1	2	3	4	5	
(ウ) 日用品・食料品などの買い物	1	2	3	4	5	
(エ) 洗濯	1	2	3	4	5	
(オ) 掃除	1	2	3	4	5	
(カ) 役所等への用事・申請書類などの作成	1	2	3	4	5	
(キ) 資産・財産の管理(土地・家屋の購入など)	1	2	3	4	5	
(ク) 家計費管理	1	2	3	4	5	
(ケ) 自治会・町内会の出席	1	2	3	4	5	6
(コ) 学校行事などへの参加	1	2	3	4	5	6
(サ) 子どもの世話	1	2	3	4	5	6
(シ) 子どもの教育	1	2	3	4	5	6
(ス) 高齢者・病人などの介護	1	2	3	4	5	6
(セ) 家庭内の簡単な修理	1	2	3	4	5	/
(ソ) 家庭における全体的な決定権	1	2	3	4	5	

※「その他」には、ボランティア、ホームヘルパー、各種家事代行も含みます。

問5 あなたの理想では、次の(ア)～(ソ)の事柄を主に誰が担うのが望ましいと思いますか。
それぞれの項目ごとに、あてはまるものを選んでください。

(○は項目ごとに1つずつ)

	1 夫	2 妻	3 夫婦ともに 同じくらい	4 その他の家族 (親や子どもなど)	5 その他(※)	6 該当なし
回 答 例	1	②	3	4	5	6
(ア) 食事の支度	1	2	3	4	5	
(イ) 食事の後片付け・食器洗い	1	2	3	4	5	
(ウ) 日用品・食料品などの買い物	1	2	3	4	5	
(エ) 洗 濯	1	2	3	4	5	
(オ) 掃 除	1	2	3	4	5	
(カ) 役所などへの用事・申請書類等の作成	1	2	3	4	5	
(キ) 資産・財産の管理(土地・家屋の購入など)	1	2	3	4	5	
(ク) 家計費管理	1	2	3	4	5	
(ケ) 自治会・町内会の出席	1	2	3	4	5	6
(コ) 学校行事などへの参加	1	2	3	4	5	6
(サ) 子どもの世話	1	2	3	4	5	6
(シ) 子どもの教育	1	2	3	4	5	6
(ス) 高齢者・病人などの介護	1	2	3	4	5	6
(セ) 家庭内の簡単な修理	1	2	3	4	5	
(ソ) 家庭における全体的な決定権	1	2	3	4	5	

※「その他」には、ボランティア、ホームヘルパー、各種家事代行も含まれます。

ここからは再び、すべての方がお答えください。

問6 男性が家事や育児、介護をすることについて、どのようなイメージをお持ちですか。
(〇はいくつでも)

1. 男性も家事や育児などをするのは当然だ
2. 家事・育児・介護を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる
3. 男性自身も充実感が得られる
4. 子どもにいい影響を与える
5. 仕事と両立することは、現実として難しい
6. 家事・育児・介護は女性の方が向いている
7. 周囲から妻が家事・育児・介護をしていないと思われる
8. 職場で冷たい目で見られる
9. 男性は、家事・育児・介護を行うべきでない
10. 特にない
11. その他 ()

問7 他の先進国と比べて、日本の男性が家事や育児などに関わる時間が少ないとの統計結果がありますが、それはなぜだと思えますか。(〇はいくつでも)

1. 男性の仕事が忙しいから
2. 休暇が取りにくいから
3. 今までの慣習や風習があるから
4. 昇進等に影響があると思うから
5. 仕事を休むことによる経済的損失が大きいから
6. 家事・育児・介護に自信がないから
7. 家事・育児・介護に対する男性の意識が低いから
8. その他 ()

問8 家事や育児、介護などの家庭内の役割を男性も担うには、どうしたらよいと思えますか。
(〇はいくつでも)

1. 行政が情報誌や講座などで、男性の家事・育児・介護への参加を促す啓発活動・学習活動を実施する
2. 家庭で男性に家事・育児・介護への参加を強く要望する
3. 男性も家事・育児・介護の仕方を身につける
4. 女性が経済的に自立する
5. 男性の労働時間を短くする
6. 働き方(就業の時間や場所)を個人の裁量で決められるようにする
7. その他 ()
8. 男性が家事・育児・介護を担う必要はない

【子育て・教育について】

問9 子どもを育てる場合、どのようにしたいと思いますか。(〇は1つ)

1. 性別によって育て方を変えた方がよい
2. 女の子も男の子も、同じように区別しないで育てた方がよい
3. どちらとも言えない(わからない)

問10 あなたは、これからの子どもたちに、どのように育ててほしいと思いますか。女の子と男の子の場合に分けて、選んでください。

(〇は男女ごとにいくつでも)

ア. 女の子の場合		イ. 男の子の場合
1	経済力のある人	1
2	独立心・自立心のある人	2
3	判断力のある人	3
4	素直な人	4
5	思いやりのある人	5
6	身の回りの事は自分で出来る人	6
7	家庭を大事にする人	7
8	言葉遣いや礼儀作法がいい人	8
9	責任感のある人	9
10	世の中のために役に立つ人	10
11	国際的視野のある人	11

問11 あなたは、社会全体で子育てを支援するために何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 夫の家事や育児への協力
2. 出産や子育てに関する情報提供や相談窓口の充実
3. 保育園の時間延長や夜間保育などの充実
4. 病児・病後児保育や一時保育など多様な保育サービスの充実
5. 労働時間の短縮
6. フレックスタイムの導入や在宅勤務などの働き方の多様化
7. 育児休業制度の利用促進
8. 各種手当や乳幼児医療費の助成など経済的支援
9. 子育て世帯への住宅提供などの住宅対策
10. 一人親世帯などに対する相談、生活支援
11. 子育てを助け合う地域ネットワークづくりの充実
12. 子どもや保護者が交流できる場（公園や児童館など）の整備、充実
13. その他（)
14. わからない |
|--|

問12 家庭・学校や地域社会において、これからどんな教育が重要であると思いますか。次の(ア)～(ク)の項目ごとに1～4の中からあてはまるものを選んでください。

(〇は項目ごとに1つずつ)

	1 で非常 あるに と重要 思う	2 思重要 うであ ると	3 ああまり るとり 思重要 わなで い	4 と重要 思うで はな い
回 答 例	①	2	3	4
(ア) 女らしい、あるいは男らしい遊びや習慣を押し付けないようにする	1	2	3	4
(イ) 男女の区別なく、同じように家事の分担をさせる	1	2	3	4
(ウ) 出席簿や座席など、男女で分ける習慣をなくす	1	2	3	4
(エ) 男女の区別なく、能力や個性を生かせるように指導する	1	2	3	4
(オ) 男女の差別的な社会の仕組みや歴史について認識を深める	1	2	3	4
(カ) 校長・教頭などに女性を積極的に登用する	1	2	3	4
(キ) 性についての正しい十分な教育を行う	1	2	3	4
(ク) 多様な結婚観・家庭観があることを教える	1	2	3	4

【職業（就業）について】

問13～問16については、あなた自身が仕事をされている場合だけ、お答えください。
仕事をされていない場合は、11ページの問17にお進みください。

問13 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で差別がありますか。（〇は1つ）

1. 差別がある

2. 差別はない

（問13で「1. 差別がある」とお答えの方に）

問13-1 具体的にどのようなことがありますか。（〇はいくつでも）

1. 賃金に男女差がある
2. 昇給、昇格に男女差がある
3. 性別によって能力を適正に評価しない
4. 性別によって配置場所が限られている
5. 性別によって仕事内容が決められてしまう
6. 女性を幹部に登用しない
7. 結婚や出産で退職しなければならない雰囲気がある
8. 育児・介護休業（休暇）の制度を利用しにくい雰囲気がある
9. 中高年以上の女性に退職を勧める雰囲気がある
10. 女性が教育や研修等を受ける機会がない
11. その他（ ）

問14 あなたが、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・趣味など）のうち優先したいものはどれですか。次の1～8の中から、あなたの理想と現状を1つずつ選んでください。

(1) 理想 (○は1つ)

1. 「仕事」
2. 「家庭生活」
3. 「地域・個人の生活」
4. 「仕事」と「家庭生活」
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」
8. わからない

(2) 現状 (○は1つ)

1. 「仕事」
2. 「家庭生活」
3. 「地域・個人の生活」
4. 「仕事」と「家庭生活」
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」
8. わからない

※家庭生活：家族とともに過ごすこと。家事（食事の支度・片付け、掃除、洗濯など）、育児、余暇、

介護、看護など。

※地域・個人の生活：学習・研究、趣味、娯楽、スポーツ、ボランティア活動、社会活動、交際・つきあいなど。

問15 あなたの職場では、子育て中の社員に対し、どのような勤務上の配慮がありますか。

(ア)～(ケ)について、1～3の中からあてはまるものを選んでください。

(○は項目ごとに1つずつ)

	1 あ り	2 な し	3 わ か ら な い
回 答 例	1	②	3
(ア) 育児休業制度	1	2	3
(イ) 配偶者出産休暇制度	1	2	3
(ウ) 育児休業中の情報提供や研修	1	2	3
(エ) 育児休業中の経済的支援	1	2	3
(オ) 事業所内託児施設の設置・運営	1	2	3
(カ) ハンドブックなどによる制度紹介	1	2	3
(キ) 子の看護休暇制度	1	2	3
(ク) 短時間勤務制度	1	2	3
(ケ) 転勤の免除等	1	2	3

(問15の「(ア) 育児休業制度」で「1 あり」とお答えの方に)

問15-1 制度利用にあたって不安はありますか。(○はいくつでも)

1. 職場の周囲の人の負担増	5. まわりの目
2. 育児休業中の収入	6. その他
3. 利用後の仕事復帰	()
4. 昇進などへの影響	7. 特に不安はない

問16 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・子の看護休暇・介護休業・介護休暇を取得できる制度があります。この制度を活用して育児休業などを取得したことがありますか。次の（ア）～（エ）について、あてはまる番号を選んでください。

（○は項目ごとに1つずつ）

	1 取得したことがある	取得したことがない (取得したことがない理由を下の欄から 選んでください)			
		2 職場に制度がなかった	3 在職中に育児・介護をした ことがない	4 取得しなくても育児・介護 に対応できた	5 取得したかったが、事情に より取得できなかった
回 答 例	1	2	③	4	5
(ア) 育児休業 (育児のために一定期間 休業できる制度)	1	2	3	4	5
(イ) 子の看護休暇 (病気の子どもの看護のための 年5日程度の休暇)	1	2	3	4	5
(ウ) 介護休業 (介護のために一定期間 休業できる制度)	1	2	3	4	5
(エ) 介護休暇 (短期の介護のための 年5日程度の休暇)	1	2	3	4	5

ここからは再び、すべての方がお答えください。

問17 女性が仕事をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい
2. 結婚や出産などで一時退職し、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
3. 子どもができるまで働く方がよい
4. 結婚するまで働く方がよい
5. 結婚や出産をしても仕事を続けた方がよいと思うが、現実的には難しい
6. 生涯仕事をもたない方がよい
7. 結婚や出産後は、パートタイム（短時間労働）に切り替えるなど負担を軽くする方がよい
8. その他（ ）
9. わからない

問18 男女が共に仕事や家庭、地域活動、趣味・娯楽などを両立していくためには、どのような取り組みが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 育児・介護休業や休暇を取得しやすい職場環境を整備する
2. 育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する
3. 地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実する
4. 職場内に保育施設を整備する
5. 在宅勤務、フレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する
6. 残業を減らすなど、年間労働時間を短縮する
7. 育児・介護休業の取得後に職場復帰しやすい環境を整備する
8. 育児のための円滑な職種転換の促進、見直しを図る
9. 管理職の意識や男性中心の職場運営を見直す
10. 仕事と家庭を両立させていく事に対し、周囲の理解を得る
11. 両立支援に関する情報を提供する
12. 再就職に関する相談や支援体制を充実させる
13. パートタイマーなど非正規社員・職員の労働条件を改善する
14. その他（ ）
15. わからない

【地域活動について】

問19 あなたは、この1年間、どのような地域活動に参加していましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. スポーツなど健康増進のための活動 | 10. 子育て支援活動 |
| 2. 趣味や文化・教養を高めるための活動 | 11. 消費生活関係の活動 |
| 3. 町内会や自治会の活動 | 12. 自然保護関係の活動 |
| 4. P T Aなどの学校関係活動 | 13. 文化財保護活動 |
| 5. 子ども会の活動 | 14. 防犯・防災関係の活動 |
| 6. 各種女性団体の活動 | 15. 商店街活動 |
| 7. 高齢者クラブの活動 | 16. その他 () |
| 8. 消防団の活動 | 17. 特になし |
| 9. 国際交流関係の活動 | |

(問19で「17. 特になし」とお答えの方に)

問19-1 こうした活動に参加しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 仕事が忙しいから | 8. 活動や交流の場所がないから |
| 2. 家事や育児が忙しいから | 9. こうした活動を担うリーダーがないから |
| 3. 家族を介護しているから | 10. 人間関係がわずらわしいから |
| 4. 自分の健康上の理由から | 11. 参加したい活動がないから |
| 5. 家族の協力や理解が得られないから | 12. こうした活動には興味がないから |
| 6. 職場の理解が得られないから | 13. こうした活動に関する情報がないから |
| 7. ひとりでは参加しにくいから | 14. その他 () |

【人権について】

問20 あなたは、女性の人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことについてでしょうか。(〇はいくつでも)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）や差別的扱い |
| 2. 職場などにおける差別待遇（女性が管理職になりにくい等） |
| 3. セクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ） |
| 4. 配偶者や交際相手からの暴力 |
| 5. 配偶者や交際相手からの一方的なセックスの強要 |
| 6. 女性へのストーカー行為等 |
| 7. レイプ（強姦）などの女性への性暴力や痴漢などのわいせつ行為 |
| 8. 売春・買春・援助交際・J Kビジネス |
| 9. 女性のヌード写真を掲載した雑誌など |
| 10. 女性の体の一部などを強調し、内容と無関係に使用した広告 |
| 11. ポルノ映画・アダルトビデオ |
| 12. その他 () |
| 13. 特に感じない |
| 14. わからない |

問21 あなたは、これまでに、あなたの夫や妻（事実婚や別居中、離別・死別を含む）または恋人などから、次のようなことをされたことがありますか。それぞれの項目ごとに1～3の中からあてはまるものを選んでください。

（○は項目ごとに1つずつ）

	1 何 度 も あ っ た	2 1、 2 度 あ っ た	3 ま っ た く な い
回 答 例	1	②	3
(ア) 大声でどなられる	1	2	3
(イ) 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」 などと言われる	1	2	3
(ウ) 交友関係や行き先、電話やメールなどを必要以上に、細かく 監視される	1	2	3
(エ) 家計に必要な生活費を渡してくれない	1	2	3
(オ) 何を言っても長時間、無視され続ける	1	2	3
(カ) あなたは見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せ られる	1	2	3
(キ) あなたがいやがっているのに、性的な行為を強要される	1	2	3
(ク) なぐるふりや、刃物でおどされる	1	2	3
(ケ) 平手でうつ、なぐる、足でけるなどの暴行を受ける	1	2	3
(コ) 子どもの前で暴力をふるわれる	1	2	3
(サ) その他 ()	1	2	3

（問21で「1. 何度もあった」か「2. 1、2度あった」に1つでも○があった方に）

問21-1 そのことを、誰かに相談しましたか。（○は1つ）

1. 相談した	2. 相談したかったが、相談しなかった 3. 相談しようと思わなかった	次ページ → 問21-1-2へ
4. どうしていいかわからなかった		

↓
次ページ問21-1-1へ

(問21-1で「1. 相談した」とお答えの方に)

問21-1-1 実際に、誰(どこ)に相談しましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 親 族 | 5. 家庭裁判所、弁護士など |
| 2. 役所の相談窓口・電話相談など | 6. 民生委員、人権擁護委員等 |
| 3. 友人、知人 | 7. 警察署 |
| 4. 医師、カウンセラー | 8. その他 () |

(問21-1で「2. 相談したかったが～」か「3. 相談しようと～」とお答えの方に)

問21-1-2 「誰(どこ)にも相談しなかった」のは、なぜですか。(〇はいくつでも)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 誰(どこ)に相談してよいか、わからなかった |
| 2. 相談する人がいなかった |
| 3. 恥ずかしくて誰にもいえなかった |
| 4. 相談しても無駄だと思った |
| 5. 相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思った |
| 6. 自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思った |
| 7. 子どもに危害が及ぶと思った |
| 8. 他人に迷惑をかけたくなかった |
| 9. 自分にも落ち度があると思った |
| 10. 相談するほどのことではないと思った |
| 11. 相談機関を知らなかった |
| 12. その他 () |

問22 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）の防止および被害者支援のために、どのような対策が重要だと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 家庭内や恋人間であっても暴力は犯罪であるという意識の啓発
2. いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備
3. 緊急時の相談体制の充実
4. 住居や就労の斡旋、経済的援助など、自立して生活するための支援策の充実
5. カウンセリングや日常的な相談など、精神的に自立するための支援策の充実
6. 相談・支援するスタッフの意識と能力を高めること
7. 関係機関の紹介や暴力への対応方法など、DVに関するいろいろな知識の提供
8. 離婚訴訟への支援など、法的なサポートの充実
9. カウンセリングなど、加害者の更生に関する対応の充実
10. 家庭や学校において、子どもに対し暴力がいけない事だと教える
11. 行政や警察による積極的な啓発活動
12. テレビ・週刊誌などのメディアの倫理規定・規制を強化
13. 過激なビデオソフト、ゲームソフト、映画などの販売や貸し出しの禁止
14. 法律による規制の強化や見直し
15. 身近で配偶者やパートナーによる暴力に気付いたら、周囲の人が通報することが大切である、という意識づくり
16. その他（）
17. わからない

※ドメスティック・バイオレンス（DV）：配偶者（事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む）または配偶者であった者から振るわれる暴力。

【男女平等参画推進センター（ミウズ）について】

問23 男女平等参画社会の実現のための推進事業や、団体・事業者の方々を支援するための拠点施設として、男女平等参画推進センター（レイクピアウスイ3階）を設置しています。あなたは、男女平等参画推進センターの施設や講座などを利用していますか。（〇は1つ）

1. よく利用している
2. 利用したことがある
3. 知っているが、利用したことはない
4. 知らない
5. 知らないが、今後利用してみたい
6. その他（）

◎男女平等参画推進センター（ミウズ）とは…

男女が社会の対等な構成員として、あらゆる分野における活動に共に参画する社会を形成するための活動拠点です。男女平等参画推進のための啓発、講座・講演会等の開催や、図書の貸出等の情報提供、女性のための相談の実施、学習室の貸出などを行っています。

問 24 今後、男女平等参画推進センターが、力をいれて実施したほうが良いと思う事業は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 女性の就業・チャレンジ支援などに関する講座の充実
2. 女性の職場での活躍に資する講座や情報提供
3. 男性の家事・育児・介護などへの参加促進に向けた講座の充実
4. NPOやボランティア団体などへの活動の場の提供
5. 子育てや介護などを担っている方への情報提供や講座の充実
6. 女性からの相談体制の強化
7. 男性からの相談体制の整備
8. DVに関する情報提供の強化
9. 地域リーダー等の養成支援
10. 国や地方自治体から発信される情報の提供の強化
11. その他 ()

【男女平等参画施策について】

問25 男女平等参画社会づくりを進めるために、佐倉市にどのような施策を期待しますか。
(〇はいくつでも)

1. 市の審議会や委員会など、市の政策方針決定の場へ女性登用の推進
2. 各種団体などの女性リーダーの養成
3. 幼児教育や学校教育において、男女平等意識の育成
4. 男女平等に関する法律や制度について情報提供の充実
5. ボランティア活動・NPO活動の充実
6. 仕事と家庭、地域活動、趣味・娯楽などの両立支援
7. 女性の再就職・起業など自立支援のための教育・学習機会の充実
8. 子育てをしやすい環境整備
9. 高齢者・障害者の介護に関する情報提供
10. 職場における、男女の均等な取扱についての周知徹底
11. 自営業や家族従業者（農業を含む）へのワーク・ライフ・バランスの啓発
12. 市職員の男女平等意識の推進
13. 性教育・性に関する学習機会の充実
14. 健康診断・生活習慣病予防など健康管理対策の充実
15. 女性に対する暴力の防止対策の充実
16. 男女平等参画の視点からの防災対策
17. 女性からの相談体制の強化
18. 男性からの相談体制の整備
19. 男女平等参画推進センターの充実
20. その他 ()
21. 特になし

問26 PTA会長や自治会長、議会や審議会・委員会等の政治分野や方針を決定する過程において、女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 男性が担うのが社会慣行だから
2. 女性は家事・育児が忙しいから
3. 家族の支援・協力が得られないから
4. 指導力のある女性が少ないから
5. 女性側の積極性が足りないから
6. 女性では、相手に軽く見られるから
7. その他 ()

最後に、あなた自身のことについてお答えください。

F1 あなたの性別に〇をつけてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F2 あなたの年齢に〇をつけてください。(平成29年8月31日現在でお答えください。)

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 1. 10歳代 | 3. 30歳代 | 5. 50歳代 |
| 2. 20歳代 | 4. 40歳代 | 6. 60歳代 |

F3 あなたのお住まいの地区に〇をつけてください。

- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 佐倉地区 | 3. 白井地区 | 5. 和田地区 | 7. 千代田地区 |
| 2. 志津地区 | 4. 根郷地区 | 6. 弥富地区 | (染井野含む) |
- (ユーカリが丘含む)

F4 あなたのご職業に〇をつけてください。結婚(事実婚を含む)されている方は、パートナーの方についてもお答えください。

(1) あなたご自身(〇は1つだけ)

- | | |
|-------------------------|------------|
| 1. 自由業・自営業・家族従業員 | 4. 学生 |
| 2. 正規社員・職員 | 5. その他 () |
| 3. 臨時・派遣・パート・アルバイト・内職など | 6. 無職 |

(2) パートナー (○は1つだけ)

1. 自由業・自営業・家族従業員	4. 学 生
2. 正規社員・職員	5. その他 ()
3. 臨時・派遣・パート・アルバイト・内職など	6. 無 職

F5 現在、いっしょにお住いの方はどなたですか。続柄は、あなたを中心にお考えください。
(○はいくつでも)

1. ひとり暮らし	7. 配偶者の親
2. 配偶者	8. 兄弟、姉妹
3. 未婚の子ども	9. 祖父母
4. 結婚した子ども	10. 孫
5. 子どもの配偶者	11. その他の身内 (配偶者の兄弟・姉妹を含む)
6. 自分の親	12. その他の人

F6 男女平等参画社会についてのご意見・ご要望などございましたら、ご自由にお書きください。

(例) 男女平等参画について、もっと広報で知らせてほしい。

以上で、質問は終わりです。

同封された封筒にて、10月2日(月)までに、ポストにご投函願います。

ご協力いただきまして、まことにありがとうございました。